

# アジア太平洋と関西 ～関西経済白書2023～

2023年11月9日(木) 13:00～14:00

@大阪産業創造館6階会議室A・B



## ★今年度の特徴

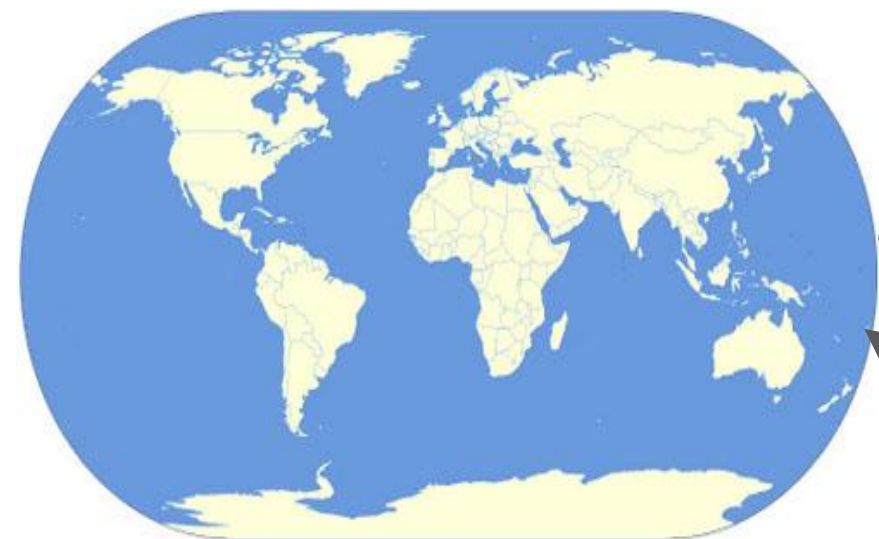
### 世界各国のコロナ禍で見えてきた世界経済の変化と挑戦を追う

Part I : アジア太平洋地域    **ポストコロナ時代の幕開け：変化と挑戦**

Part II : 関西地域の分析    **関西経済反転に向けての正念場**

## (昨年の白書と異なる点)

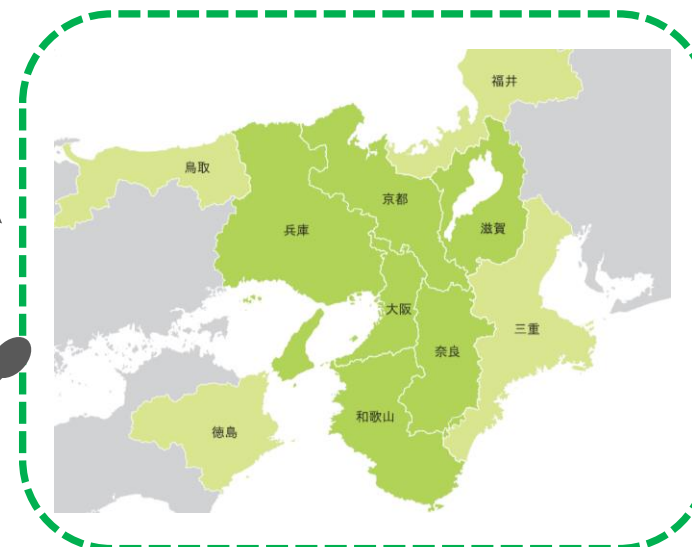
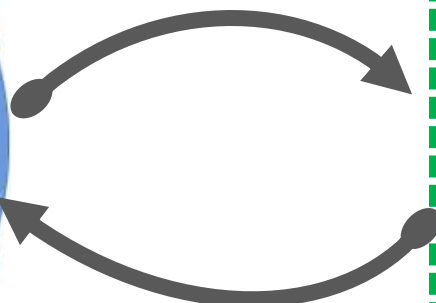
- ◆ 2022年はコロナ禍およびロシア・ウクライナ危機と相まって世界経済の混乱はさらに深刻化し歴史的転換期を迎えた。昨年の『関西経済白書2022』では、不安定化する世界経済の現状を詳しく分析。今年の『関西経済白書2023』では、高インフレ下の世界主要国の現状とアジアおよび関西地域の課題と展望について考察
- ◆ Part I では3 issues & 5 topics、Part II では4 issues & 10 topicsにまとめて報告



## Part I の分析

【ポストコロナ時代の幕開け：変化と挑戦】

1. 国際秩序の変容と世界経済
2. 米中経済の課題と対応
3. 日本企業の戦略と課題



## Part II の分析

【関西経済反転に向けての正念場】

1. 物価と賃金の好循環メカニズムを目指して
2. 儲かる産業構造とは
3. インバウンドの回復と観光戦略
4. 拡張万博とDX

## Part III EXPO 2025 Chronology · Tourism Chronology

## Part I ポストコロナ時代の幕開け：変化と挑戦

### Chapter 1 アジア太平洋地域を巡る 2023 年の主要論点

|           |                      |    |
|-----------|----------------------|----|
| Section 1 | 国際秩序の変容と世界経済         | 2  |
| Section 2 | ソフトランディングを目指す米国経済    | 8  |
| Section 3 | 中国経済が抱えるリスク：不動産と地方財政 | 16 |
| Section 4 | エネルギー危機下の EU・欧州経済    | 22 |
| Section 5 | 逼迫する水問題              | 31 |

### Chapter 2 アジア地域の主要課題

|           |                          |    |
|-----------|--------------------------|----|
| Section 1 | 日本・日本企業の対東アジア経済戦略        | 38 |
| Section 2 | 「ビジネスと人権」を考える：普遍的な人権とは何か | 44 |
| Section 3 | アジア諸国における家計債務問題と住宅市況     | 48 |
| Section 4 | 新たな人口ダイナミクス：WPP2022 から   | 59 |

## Part III Chronology

|                      |     |
|----------------------|-----|
| EXPO 2025 Chronology | 201 |
| Tourism Chronology   | 211 |

## Part II 関西経済反転に向けての正念場

### Introduction

### Chapter 3 日本・関西経済の回顧と予測

|           |                    |     |
|-----------|--------------------|-----|
| Section 1 | 物価と賃金の好循環メカニズムについて | 70  |
| Section 2 | 日本経済の回顧と短期予測       | 80  |
| Section 3 | 関西経済の現況と短期予測       | 90  |
| Section 4 | インフレと家計の負担         | 97  |
| Section 5 | 関西経済の府県別動向         | 105 |

### Chapter 4 関西経済の課題と展望

|           |  |     |
|-----------|--|-----|
| Section 1 | 関西労働市場の現状と課題                           | 110 |
| Section 2 | 関西・大阪における DX の活用                       | 119 |
| Section 3 | 新型コロナウイルスが関西の地方自治体の財政に与えた影響            | 125 |
| Section 4 | 金融機関による人材支援と人材育成：<br>関西地域金融機関の取り組みを中心に | 132 |

### Chapter 5 関西経済と観光

|           |                                   |     |
|-----------|-----------------------------------|-----|
| Section 1 | 2022 年度関西観光の振り返り：インバウンドと国内旅行需要の回復 | 138 |
| Section 2 | 関西 DMO と観光：コロナ禍を経た新たな観光戦略について     | 145 |
| Section 3 | 関西の観光戦略の 10 年を振り返る                | 158 |
| Column A  | APIR シンポジウム概要：次代につなぐ、持続可能なツーリズムとは | 166 |

### Chapter 6 関西経済の持続的な発展に向けて：大阪・関西万博を契機に

|           |                                  |     |
|-----------|----------------------------------|-----|
| Section 1 | 儲かる産業とは何か：基礎データによる洗い出し           | 172 |
| Section 2 | 期待される関西の産業構造：投資・人材を呼び込むために       | 182 |
| Section 3 | 儲かる産業・地域に向けた実践事例：拡張万博と周遊化促進の経済効果 | 189 |

# アジア太平洋と関西 ～関西経済白書2023～ Part II 概要

---

|        |    |    |
|--------|----|----|
| 編集委員長  | 稲田 | 義久 |
| 編集副委員長 | 猪木 | 武徳 |
| 編集副委員長 | 本多 | 佑三 |
| 編集委員   | 松林 | 洋一 |
| 編集委員   | 後藤 | 健太 |

## 【1.物価と賃金の好循環メカニズムを目指して：短期的な分析】

- Introduction & Chap.3 Sec.1 物価と賃金の好循環メカニズム
- Chap.3 Sec.2 & Sec.3 日本経済・関西経済の現況と短期予測
- Chap.3 Sec.4 インフレと家計の負担

## 【2.儲かる産業構造とは：関西の産業構造の特徴を探る：長期的な分析】

- Chap.6 Sec.1 儲かる産業構造とは何か：基礎データによる洗い出し
- Chap.6 Sec.2 期待される関西の産業構造：投資・人材を呼び込むために
- Chap.4 Sec.1 関西労働市場の現状と課題

## 【3.インバウンドの回復と観光戦略】

- Chap.5 Sec.3 関西の観光戦略の10年間を振り返る
- Chap.5 Sec.1 2022年度関西観光の振り返り：インバウンドと国内旅行需要の回復

## 【4.拡張万博とDX】

- Chap.6 Sec.3 儲かる産業・地域に向けた実践事例：拡張万博と周遊化促進の経済効果
- Chap.4 Sec.2 関西・大阪におけるDXの活用

## 【1.物価と賃金の好循環メカニズムを目指して：短期的な分析】

- Introduction & Chap.3 Sec.1 物価と賃金の好循環メカニズム
- Chap.3 Sec.2 & Sec.3 日本経済・関西経済の現況と短期予測
- Chap.3 Sec.4 インフレと家計の負担

## 【2.儲かる産業構造とは：関西の産業構造の特徴を探る：長期的な分析】

- Chap.6 Sec.1 儲かる産業構造とは何か：基礎データによる洗い出し
- Chap.6 Sec.2 期待される関西の産業構造：投資・人材を呼び込むために
- Chap.4 Sec.1 関西労働市場の現状と課題

## 【3.インバウンドの回復と観光戦略】

- Chap.5 Sec.3 関西の観光戦略の10年間を振り返る
- Chap.5 Sec.1 2022年度関西観光の振り返り：インバウンドと国内旅行需要の回復

## 【4.拡張万博とDX】

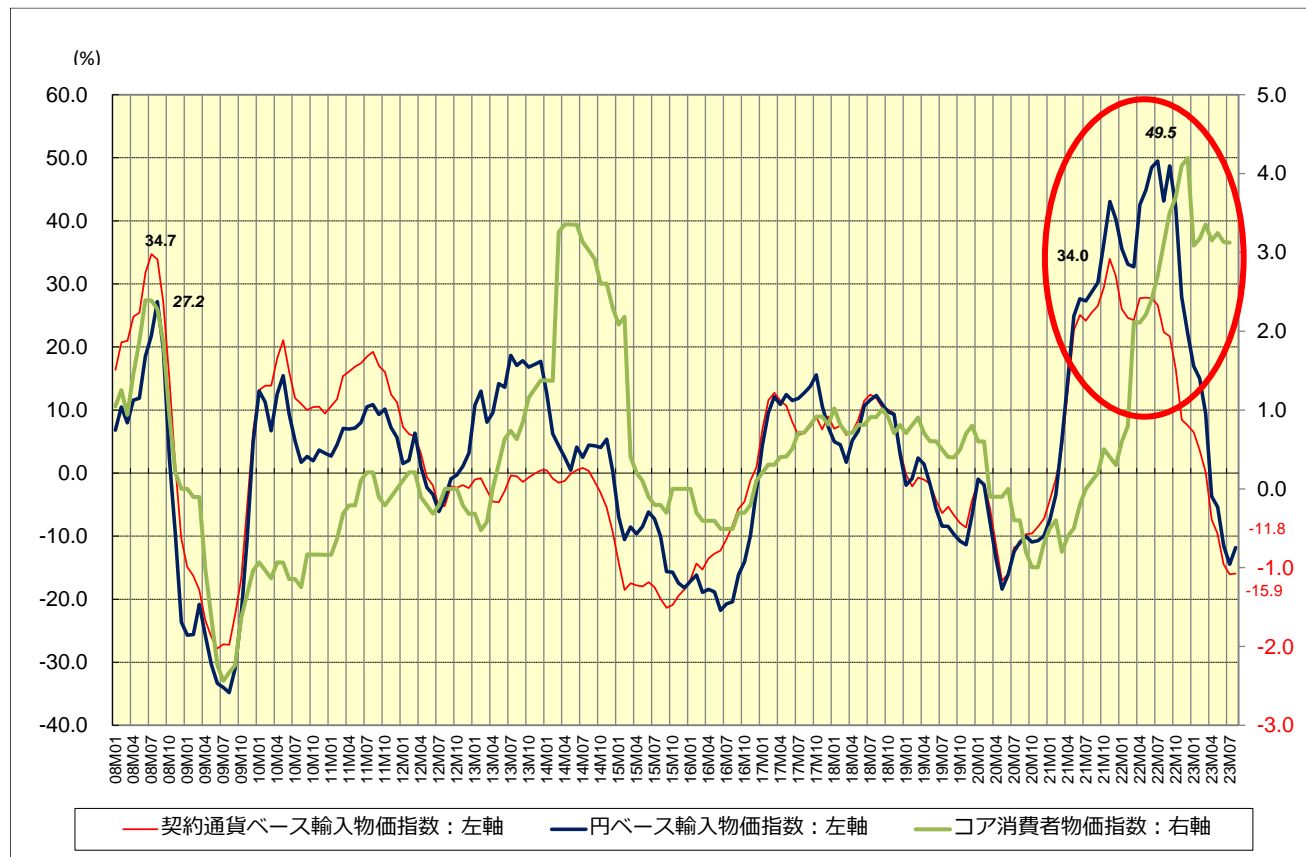
- Chap.6 Sec.3 儲かる産業・地域に向けた実践事例：拡張万博と周遊化促進の経済効果
- Chap.4 Sec.2 関西・大阪におけるDXの活用

# 2022年は物価と賃金の好循環に注目が集まった歴史的な年

P.67参照

- ◆ **コロナ禍後の回復過程の特徴：**
- ◆ **2008年から10年12月(83.4円)：24ポイントの円高⇒21年1月から22年10月(147.0円)：43ポイント円安が進行**
- ◆ **輸入物価インフレはタイムラグを伴い、国内企業物価に伝播し、消費者物価に転嫁**
- ◆ **結果、2023年4-6月期の実質賃金は5四半期連続の前年比マイナス**
- ◆ **22年は急速な所得環境の悪化ゆえに、物価と賃金の好循環に国民的な注目が集まった歴史的な年**

図0-1 契約通貨ベース輸入物価指数、円ベース輸入物価指数、コア消費者物価指数：前年同月比 (%)



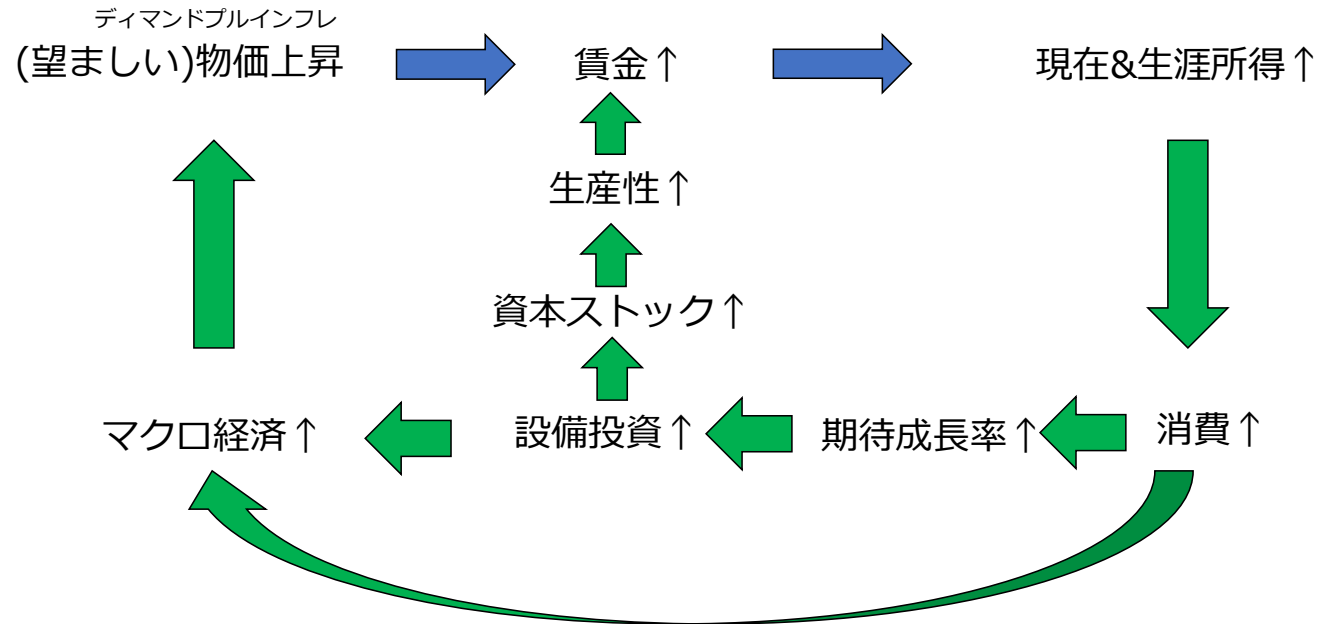
出所：日本銀行『国内企業物価指数』及び総務省『全国消費者物価指数』より筆者計算



# 物価と賃金の好循環メカニズム

- ◆ 物価と賃金の好循環についての理論的・実証的なフレーム
- ◆ ①賃金が持続的に上昇するためには、**経済全体の活況度を高め物価を上昇させていくことが基本**
- ◆ ②賃金上昇には**労働生産性の向上**が不可欠
- ◆ ③設備投資は経済全体の需要を増やすだけでなく、生産設備の増加を通じて生産性及び供給力を高める
- ◆ **物価と賃金の好循環とは、マクロ経済の需要サイドと供給サイドが相互にリンクしながら好影響を及ぼし合うメカニズム(図3-1-18)**

図3-1-18 物価と賃金の好循環のメカニズム



# 日本経済の現況と短期予測

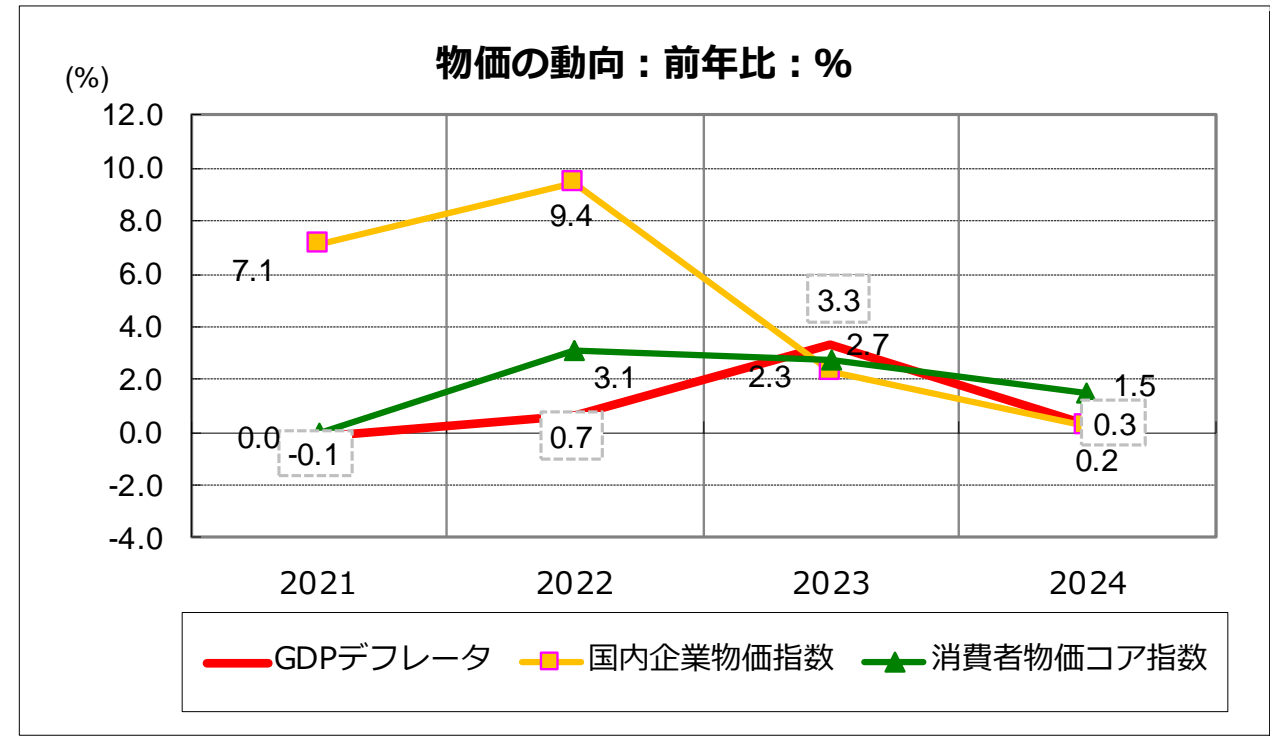
(単位：2019年7-9月期=100)

- ◆ **4-6月期実質GDP(2次速報)**は558.6兆円と、コロナ禍前ピーク(557.4兆円)を0.2%上回った。回復に**15四半期**を要した
- ◆ 民間最終消費支出(-3.0%)、民間資本形成(-3.0%)の回復は依然遅れているが、インバウンドの急回復により**サービス輸出はコロナ禍前ピークを回復(+2.9%)**
- ◆ 一方、**財貨輸入(-1.4%)**は内需の弱さを反映し、**6四半期ぶりにピークを下回ったのは象徴的**

|             | 国内総生産 | 財貨輸入  | サービス輸入 | 民間最終消費支出 | 民間資本形成 | 政府支出  | 財貨輸出  | サービス輸出 |
|-------------|-------|-------|--------|----------|--------|-------|-------|--------|
| <b>19Q3</b> | 100.0 | 100.0 | 100.0  | 100.0    | 100.0  | 100.0 | 100.0 | 100.0  |
| 19Q4        | 97.3  | 98.7  | 96.0   | 96.7     | 94.9   | 100.3 | 98.1  | 100.2  |
| 20Q1        | 97.6  | 93.9  | 94.7   | 97.3     | 95.1   | 100.3 | 95.5  | 88.7   |
| 20Q2        | 90.0  | 94.8  | 89.2   | 89.1     | 91.8   | 101.2 | 78.1  | 76.7   |
| 20Q3        | 95.0  | 87.1  | 84.9   | 94.0     | 88.8   | 103.1 | 88.9  | 73.3   |
| 20Q4        | 96.9  | 94.3  | 84.3   | 95.8     | 89.6   | 103.9 | 98.5  | 75.1   |
| 21Q1        | 96.6  | 96.2  | 85.3   | 94.1     | 92.5   | 103.8 | 100.8 | 79.0   |
| 21Q2        | 97.1  | 99.3  | 94.2   | 94.4     | 93.6   | 105.1 | 104.7 | 79.8   |
| 21Q3        | 96.8  | 98.2  | 91.1   | 93.3     | 93.5   | 105.5 | 103.9 | 80.6   |
| 21Q4        | 97.8  | 99.0  | 90.0   | 96.1     | 93.4   | 103.9 | 104.1 | 80.2   |
| 22Q1        | 97.3  | 103.0 | 92.1   | 95.1     | 95.7   | 103.7 | 106.4 | 78.3   |
| 22Q2        | 98.5  | 104.7 | 91.1   | 96.8     | 96.0   | 104.1 | 107.8 | 82.1   |
| 22Q3        | 98.2  | 106.8 | 108.0  | 96.8     | 97.6   | 104.2 | 109.6 | 86.9   |
| 22Q4        | 98.3  | 108.5 | 102.0  | 97.0     | 95.3   | 104.5 | 109.5 | 94.3   |
| 23Q1        | 99.1  | 104.3 | 106.5  | 97.6     | 98.2   | 104.8 | 102.8 | 99.9   |
| 23Q2        | 100.2 | 98.6  | 106.3  | 97.0     | 97.0   | 104.9 | 106.0 | 102.9  |

出所：内閣府「四半期GDP速報 2023年4-6月期(2次速報値)」よりAPIR作成

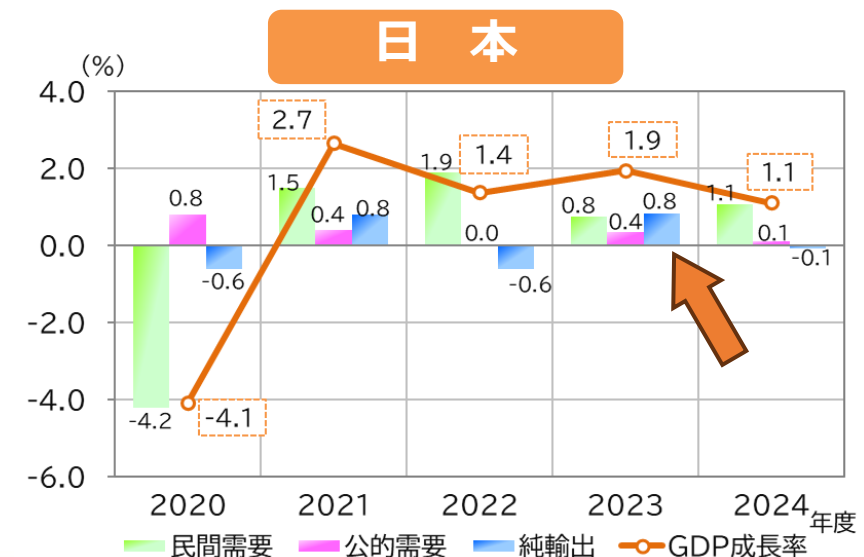
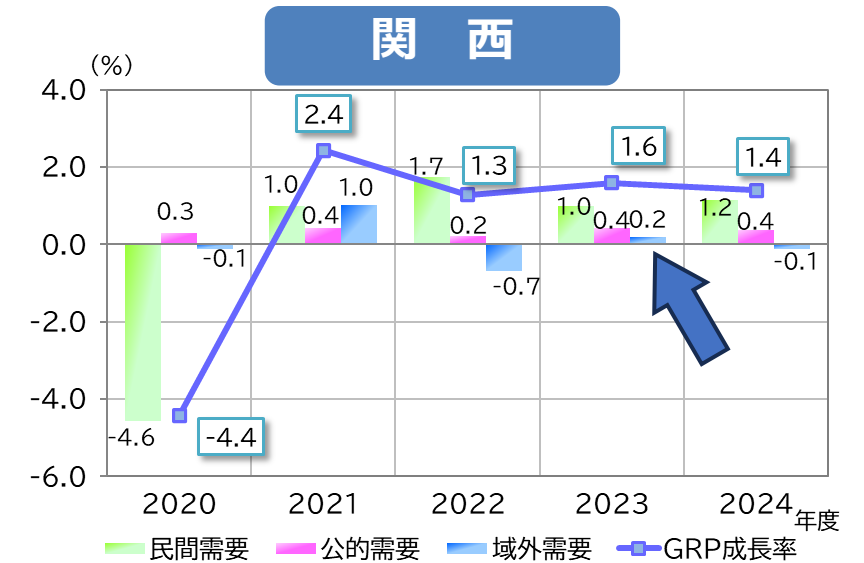
- ◆ 輸入物価の下落により財価格は下落トレンド、サービス価格は上昇に。**2023年度前半の消費者物価のインフレ率は3%台で高止まりするが、後半には減速**
- ◆ **消費者物価コア指数のインフレ率を、23年度+2.7%、24年度+1.5%と予測**
- ◆ **交易条件が大幅改善するため、23年度のGDPデフレーターは+3.3%上昇し、名目GDPは+5.3%の高成長**



出所：アジア太平洋研究所『第144回 景気分析と予測』

# 実質GRP成長率の予測結果と項目別寄与度

- ◆ 日本の実質GRP成長率を2023年度+1.9%、24年度+1.1%と予測
- ◆ 純輸出は23年度+0.8%ポイント、24年度-0.1%ポイント
- ◆ **関西の実質GRP成長率を23年度+1.6%、24年度+1.4%と予測**
- ◆ **域外需要は23年度+0.2%ポイント、24年度-0.1%ポイントと低調に推移**
- ◆ **関西では中国向け輸出のウェイトが大きく、良くも悪くも影響が大きい**



# インフレによる家計の負担割合：2022年

- ◆ 食料、光熱水道ともに第 I 階層の負担割合が大きい(可処分所得の約2%)
- ◆ 関西の家計の負担額：食料は4万3,487円、光熱水道は2万9,177円
- ◆ 23年に入り、激変緩和措置によりエネルギーコストは低下するが、気になる消費者物価の足下高止まり

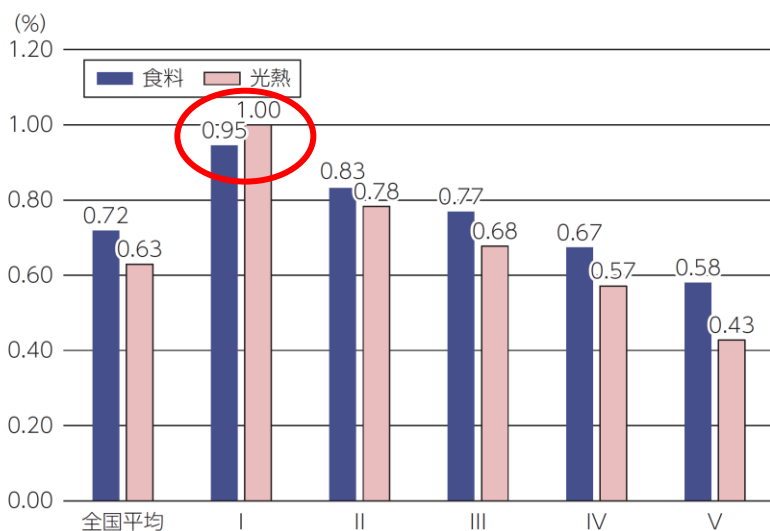


図 3-4-3

食料と光熱費の負担増額が可処分所得に占める割合 (収入階級別)

出所) 総務省統計局『消費者物価指数』と『家計調査』より筆者推計

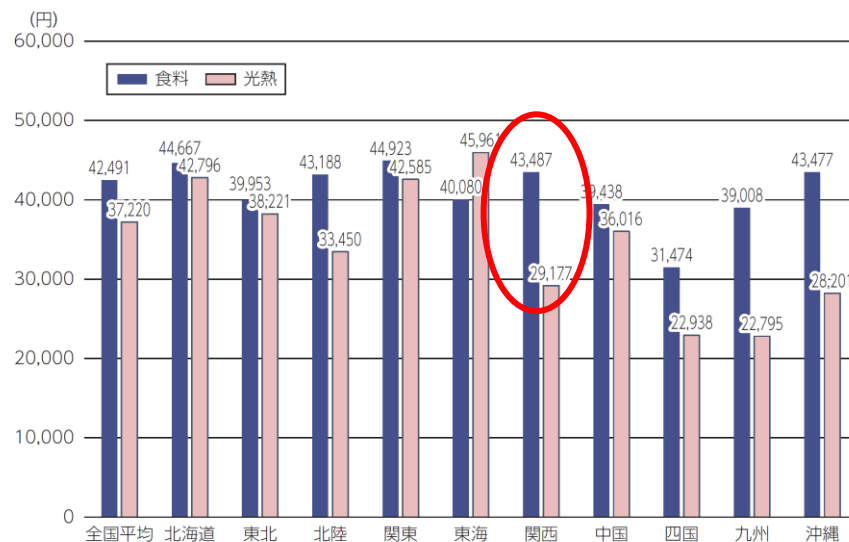


図 3-4-4

2022年物価上昇による食料と光熱費の負担増額 (地域別)

出所) 総務省統計局『消費者物価指数』と『家計調査』より筆者推計

## 【1.物価と賃金の好循環メカニズムを目指して：短期的な分析】

- Introduction & Chap.3 Sec.1 物価と賃金の好循環メカニズム
- Chap.3 Sec.2 & Sec.3 日本経済・関西経済の現況と短期予測
- Chap.3 Sec.4 インフレと家計の負担

## 【2.儲かる産業構造とは：関西の産業構造の特徴を探る：長期的な分析】

- Chap.6 Sec.1 儲かる産業構造とは何か：基礎データによる洗い出し
- Chap.6 Sec.2 期待される関西の産業構造：投資・人材を呼び込むために
- Chap.4 Sec.1 関西労働市場の現状と課題

## 【3.インバウンドの回復と観光戦略】

- Chap.5 Sec.3 関西の観光戦略の10年間を振り返る
- Chap.5 Sec.1 2022年度関西観光の振り返り：インバウンドと国内旅行需要の回復

## 【4.拡張万博とDX】

- Chap.6 Sec.3 儲かる産業・地域に向けた実践事例：拡張万博と周遊化促進の経済効果
- Chap.4 Sec.2 関西・大阪におけるDXの活用

- ◆ 『アジア太平洋と関西 関西経済白書2022』 Chapter 6 Section 1において**関西経済の地盤沈下(成長率低下)の原因**として**投資不足**を指摘
- ◆ これに対して、儲かる産業を誘致・育成するかが課題であり、本年の白書Chapter 6はこれらにチャレンジ
- ◆ 今回は、基礎データ(経済センサス)を用いて、**関西経済の産業構造を整理し成長産業を洗い出し、将来の産業構造を検討**
- ◆ **儲かる産業構造に光を当てた**

# 【参考】地盤沈下する関西経済：15%経済へ

- ◆ 関西経済のシェアは**1970年度に19.3%のピーク**。2度の石油危機を経て89年に16.2%にまで低下
- ◆ バブルの影響もありシェアは91年に一旦反転したものの、上昇は一時的
- ◆ 90年代後半にシェアは再び低迷し、2000年度に16%を割り込み、**15%台で低迷**(図6-1-1)

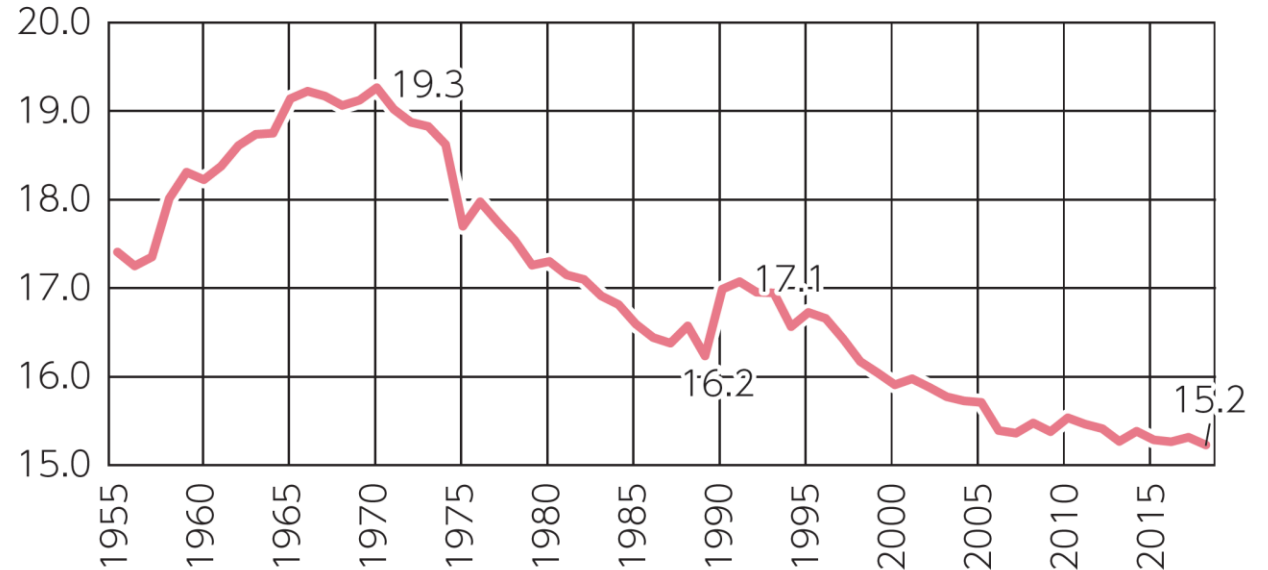


図6-1-1

関西経済のシェア

P.171参照

資料) 内閣府『県民経済計算』『国民経済計算』に基づき、筆者作成



- ◆ **経済センサス**をベースに付加価値額シェアを比較すれば、
- ◆ **南関東**が35.0%と他地域に比して圧倒的に高い
- ◆ **関西**は16.4%と**東海**(13.2%)や**九州**(7.9%)と比較すれば、高いものの、南関東との差が大きい

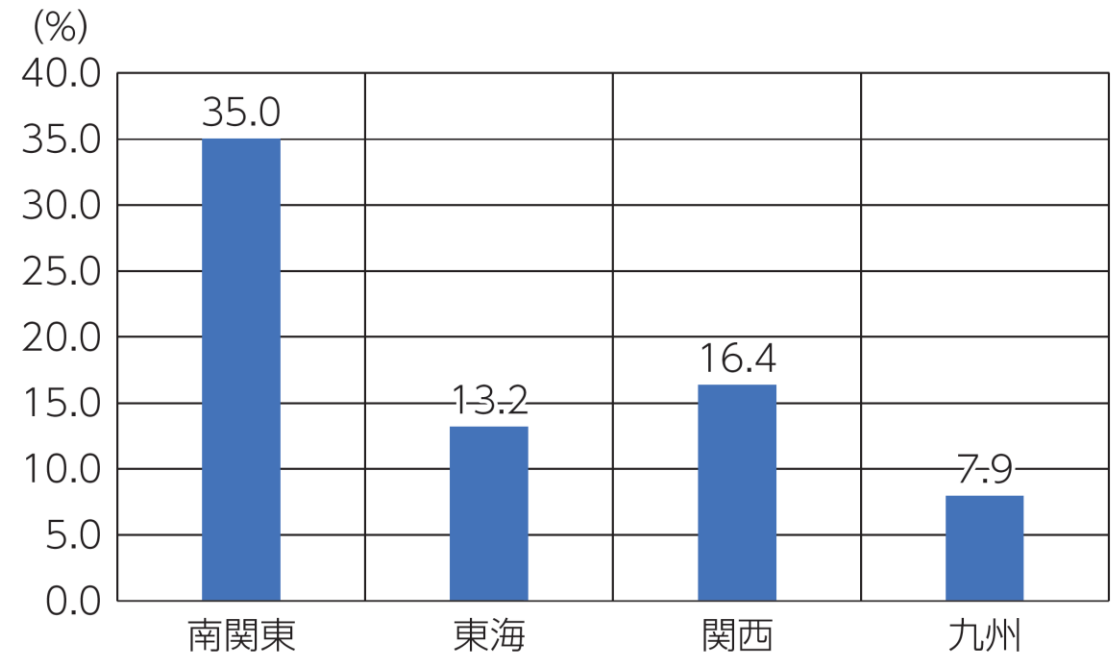


図6-1-1 付加価値額全国シェアの比較：2015年

出所) 総務省統計局『平成28年経済センサス-活動調査』より作成

注：南関東：埼玉県，千葉県，東京都，神奈川県，東海：岐阜県，静岡県，愛知県，三重県，関西：大阪府，京都府，兵庫県，滋賀県，奈良県，和歌山県，福井県，九州：福岡県，佐賀県，長崎県，熊本県，大分県，宮崎県，鹿児島県。なお，関西は2府5県ベース

# 付加価値額の地域別シェア：大分類ベース

P.173参照

- ◆ **南関東**：「情報通信業」、「学術研究、専門・技術サービス業」や「金融業、保険業」が他地域に比して高く、特に「**情報通信業**」と「**金融業、保険業**」のシェアが圧倒的に高い
- ◆ **東海**：「**製造業**」の付加価値額シェアが他地域と比して圧倒的に高い
- ◆ **関西**：「**卸売業、小売業**」が最も高い。次いで「**製造業**」、「**医療、福祉**」と続く
- ◆ **九州**：**関西と似た産業構造**となっているものの、「**医療、福祉**」のシェアが他地域に比して高い

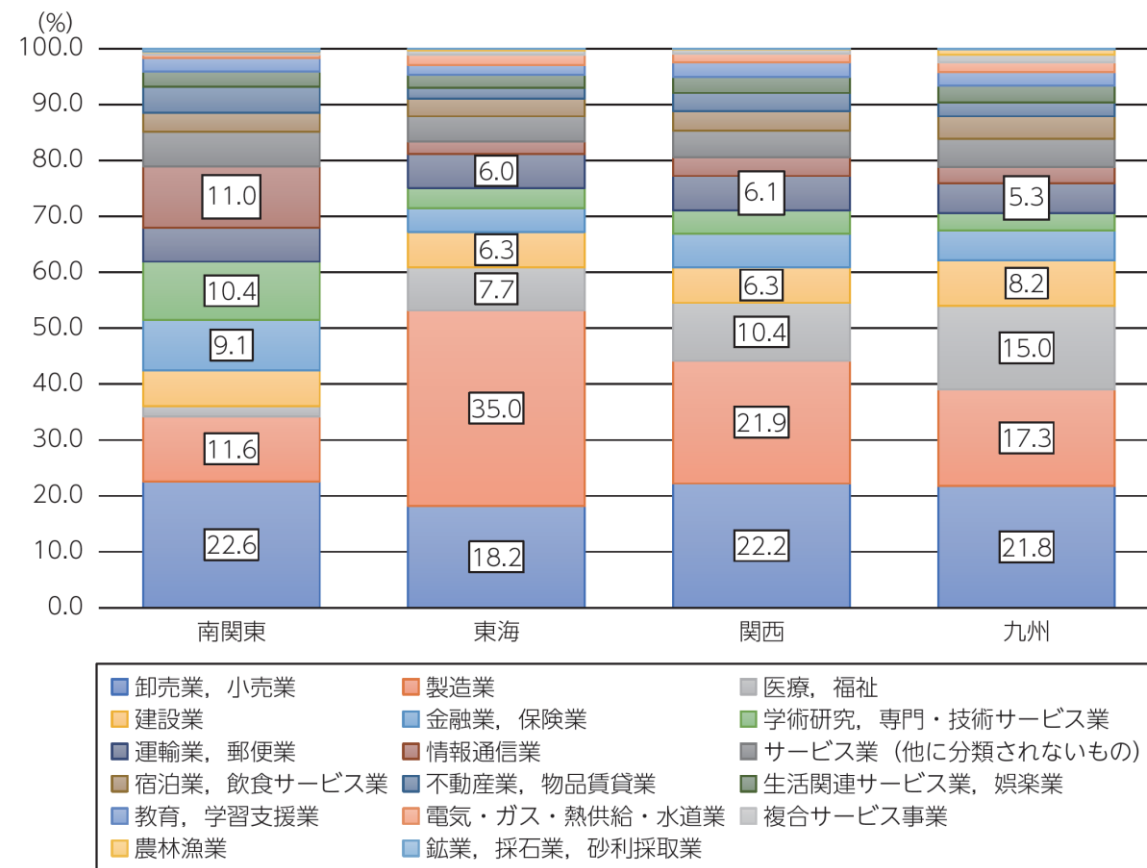


図6-1-2

各地域の産業別付加価値額シェア（上位5産業）の比較：2015年

出所) 総務省統計局『平成28年経済センサス-活動調査』より作成

# 付加価値額シェア：大分類ベース：関西

P.175参照

- ◆ 関西各府県の産業構造をみると、
- ◆ シェア上位3位は「製造業」、「卸売業、小売業」、「医療、福祉」
- ◆ シェア上位5位には「建設業」が入っている
- ◆ 他の産業について見れば、**京都府、滋賀県**では「**運輸業、郵便業**」が一定程度のシェアを占める

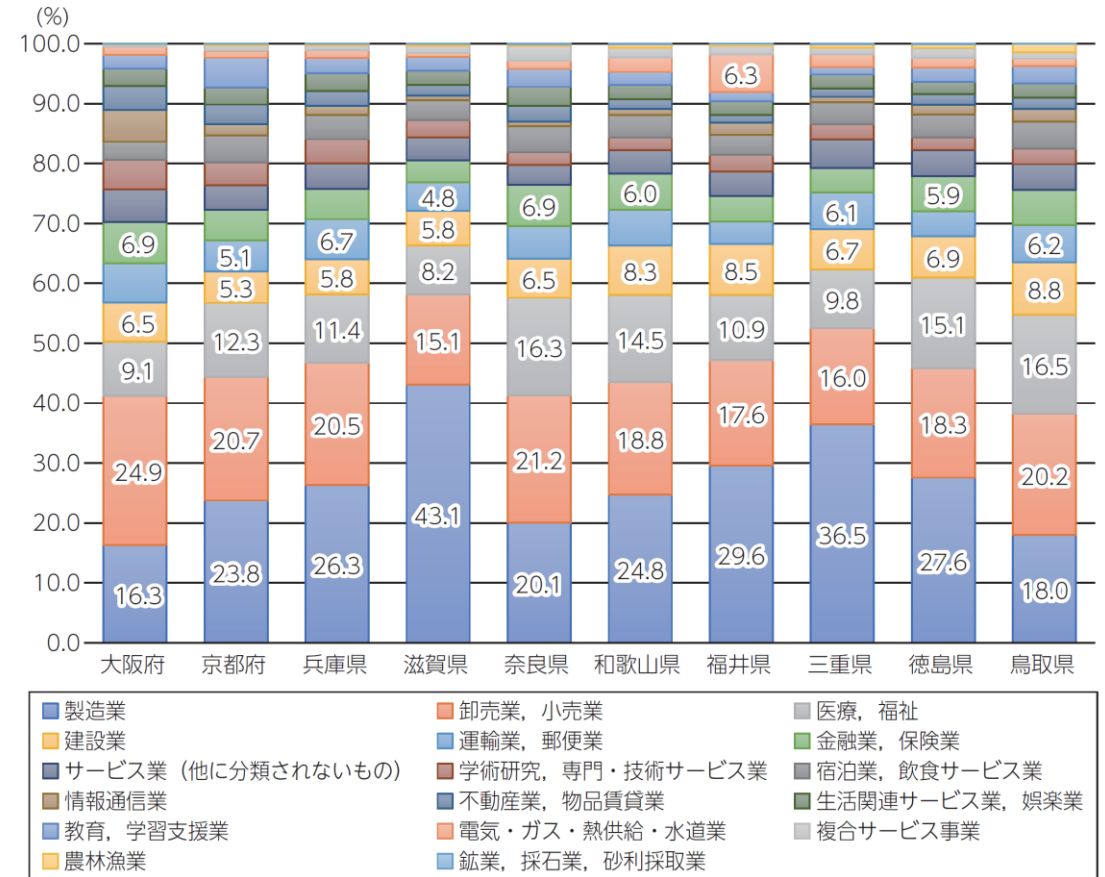


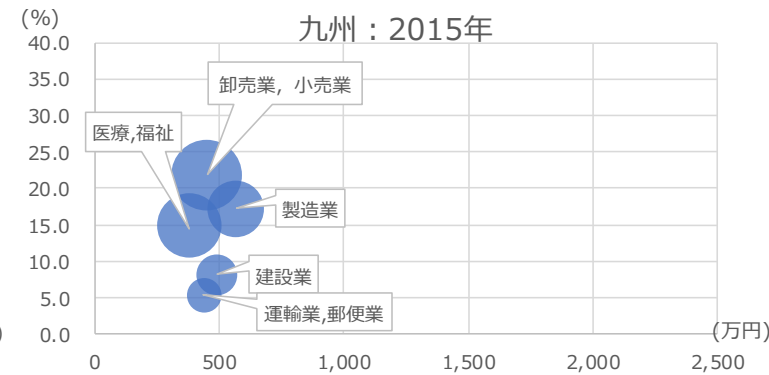
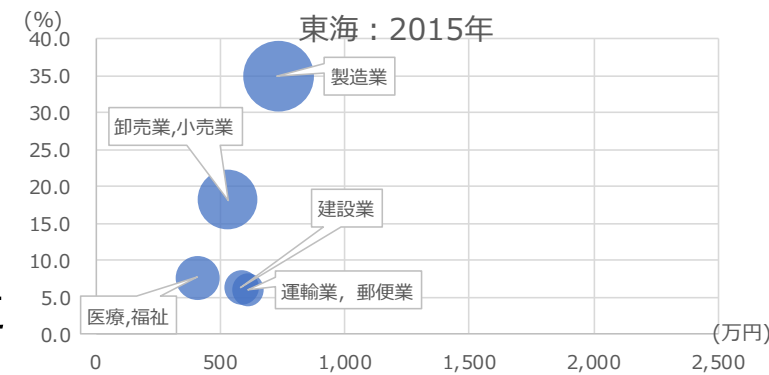
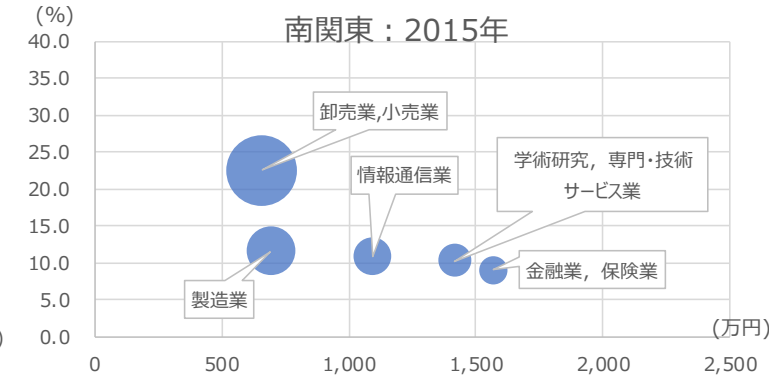
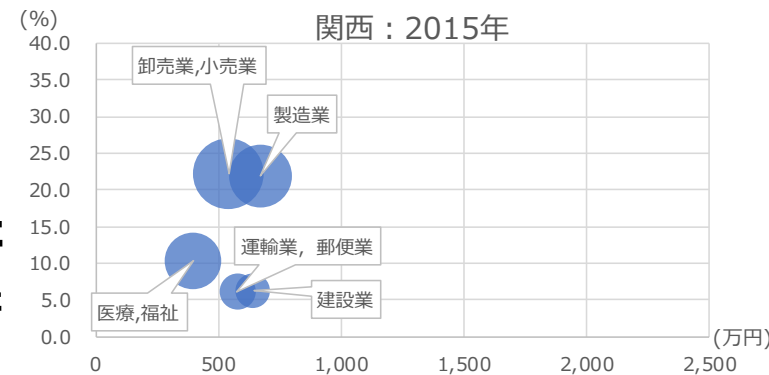
図 6-1-4

関西各府県の産業別付加価値額シェア（上位5産業）の比較：2015年

出所) 総務省統計局『平成28年経済センサス-活動調査』より作成

# 儲かる産業構造：シェアと1人当たり付加価値額を可視化

- ◆ **関西**：「**製造業**」の1人当たり付加価値額は高いが、東海より低い。「**建設業**」や「**運輸業、郵便業**」も高いが、シェア10%は未達
- ◆ **南関東**：「**金融業、保険業**」の1人当たり付加価値額が高い。「**学術研究、専門・技術サービス業**」や「**情報通信業**」も高い
- ◆ **東海**：「**製造業**」の1人当たり付加価値額及びシェアが他地域に比して圧倒的に高い
- ◆ **九州**：「**卸売業、小売業**」や「**製造業**」のシェアや1人当たり付加価値額が高く、関西と同様の産業構造となっている



出所：アジア太平洋研究所『APIR Trend Watch No.90(近刊)』

- ◆製造業を細分類ベースで見れば、異なった姿が見えてくる
- ◆九州では、「集積回路製造業」、「半導体素子製造業」などの1人当たり付加価値額が高い(図6-1-5)
- ◆関西では、「抵抗器・コンデンサ・変成器・複合部品製造業」や「電子回路基板製造業」などが高い

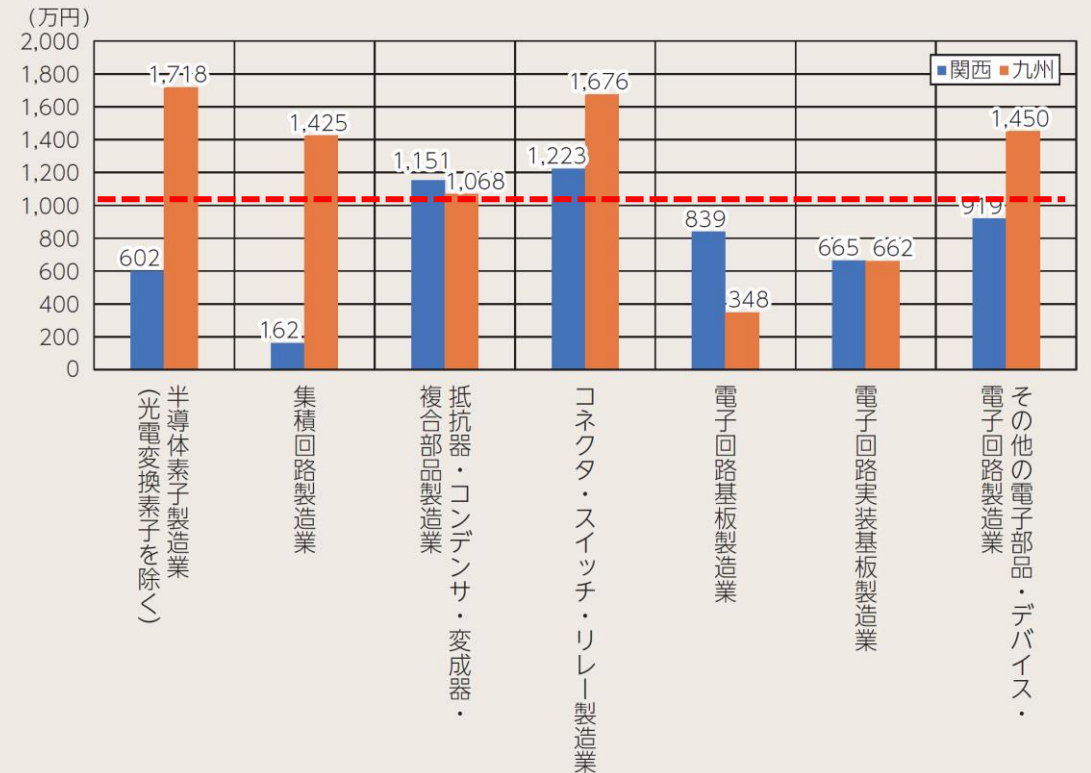


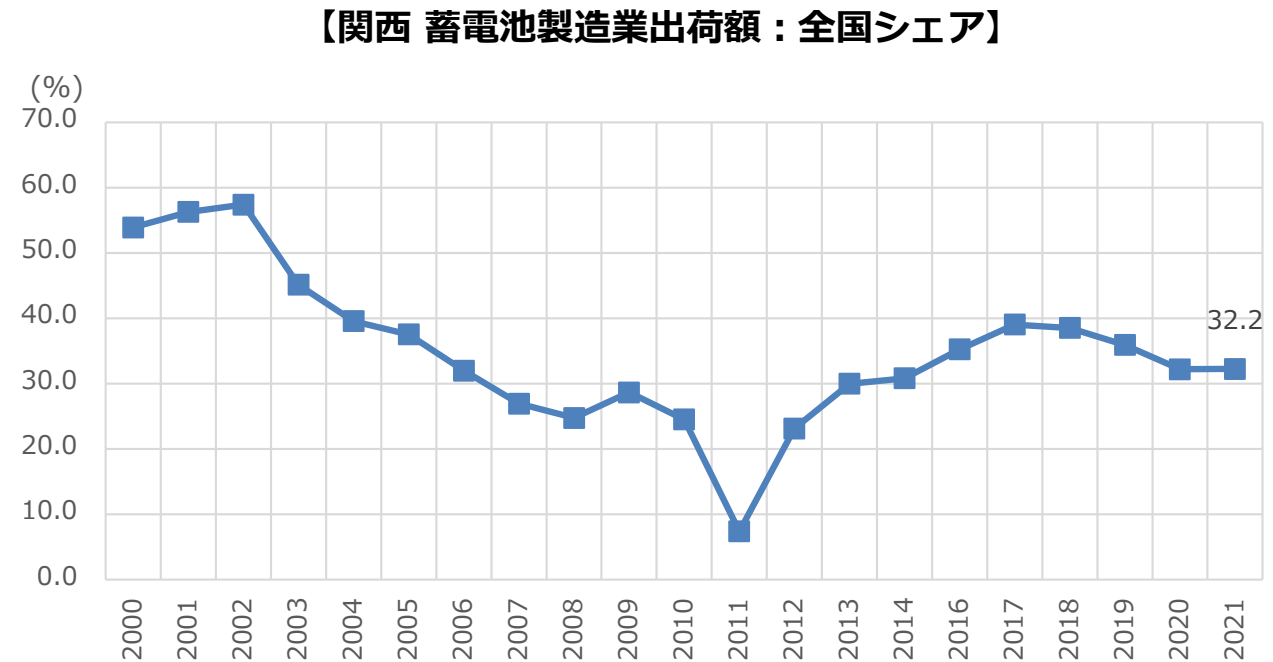
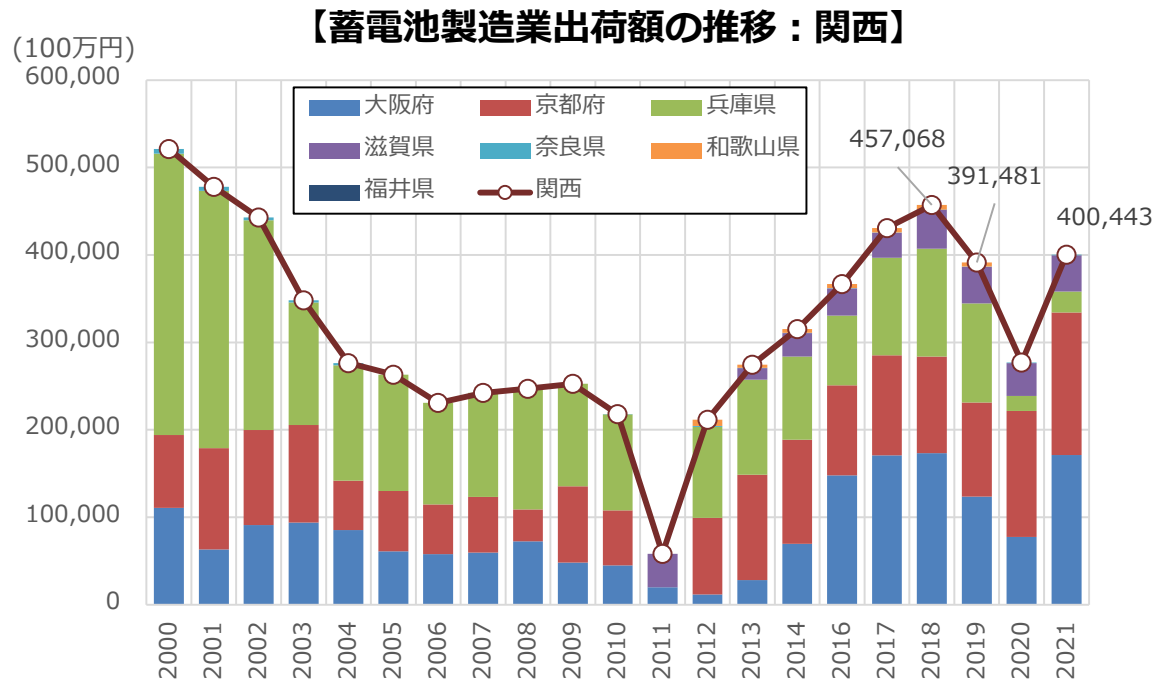
図6-1-5

電子部品・デバイス・電子回路製造業細分類における1人当たり付加価値額の比較：関西vs.九州

出所) 総務省統計局『令和3年経済センサス-活動調査』より作成

# 製造業細分類別出荷額の推移：蓄電池製造業：関西

- ◆蓄電池製造業をみれば、関西の出荷額は2021年は4,000億円程度
- ◆全国シェアをみれば、足下2021年は32.2%で推移

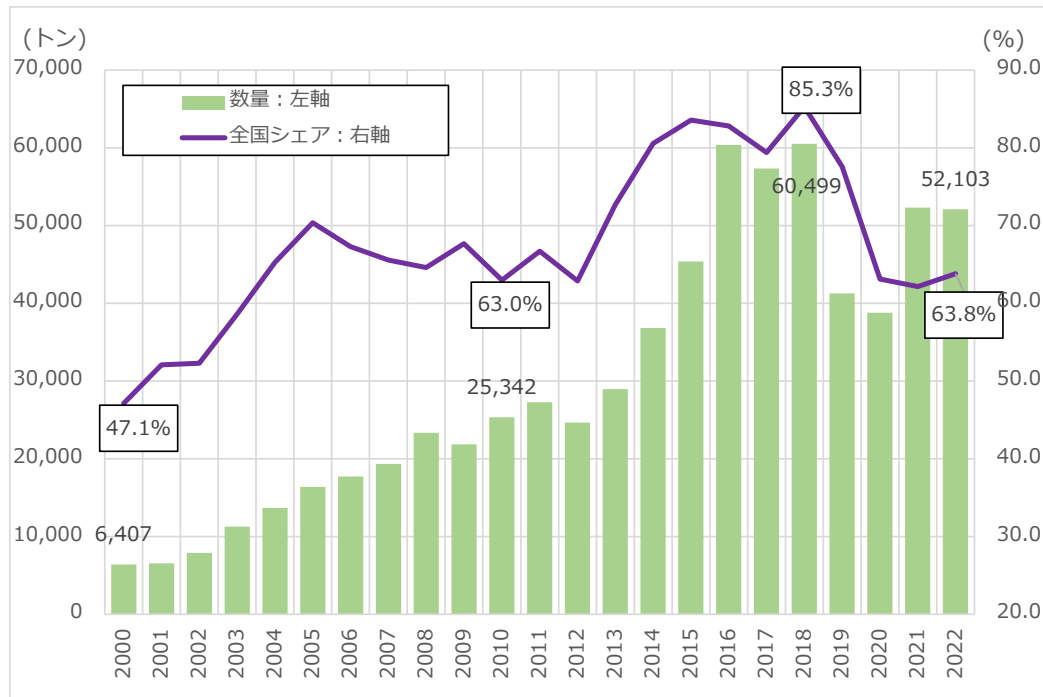


注：2011年については滋賀県、大阪府以外の府県の公表がないことに注意。そのため、出荷額は低く出ている。  
出所：総務省統計局『経済センサス活動調査』、経済産業省『工業統計調査』、『経済活動実態調査』より作成

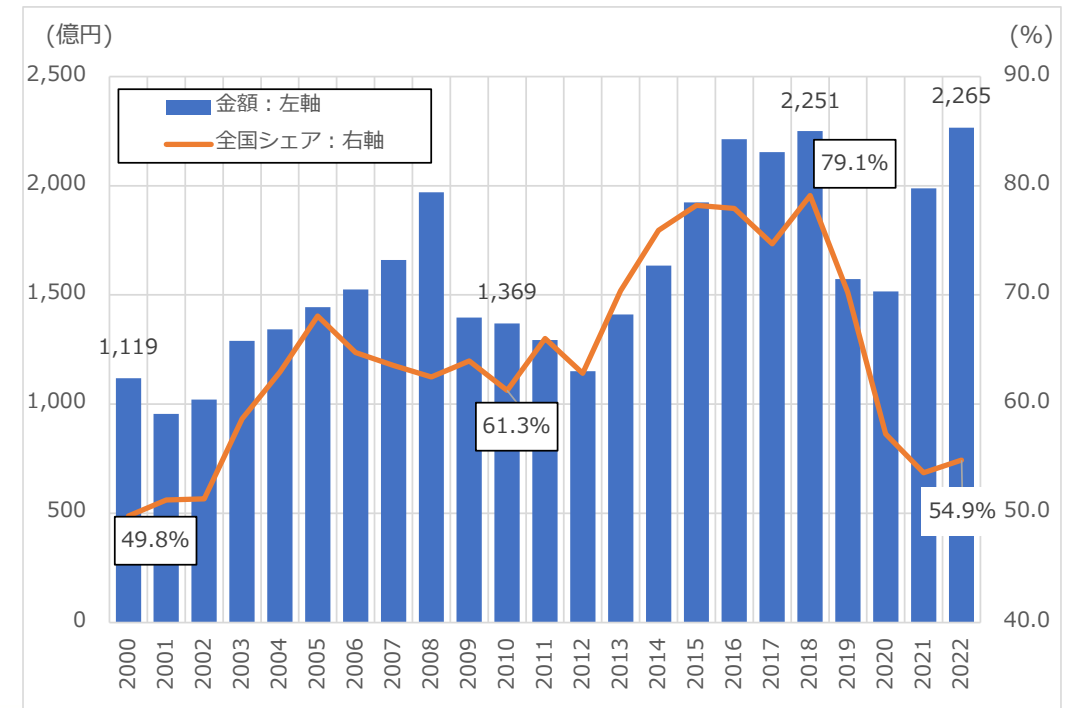
# リチウムイオン電池の輸出額と数量：関西

- ◆ 関西からのリチウムイオン電池の輸出数量をみれば、2022年は5万2,103トン(全国シェア：63.8%)
- ◆ 輸出額でみれば、足下2022年は2,265億円(同：54.9%)で推移

【リチウムイオン電池輸出数量の推移：関西】



【リチウムイオン電池輸出額の推移：関西】



- ◆ 関西の課題解決型の事業や業種と、DXビジネスの考え方を掛け合わせることで、既存の産業分類にこだわらない「**関西の新たな強みとなるビジネス(儲かるビジネス)**」を検討
- ◆ ビジネス環境は変化が常であり、変化のスピードはますます加速しているため、「**掛け合わせ**」による**新たなビジネスの発掘を継続的に**行っていくことが必要



図 6-2-1

関西の新たな強みとなるビジネス発掘の考え方

出所) 筆者作成

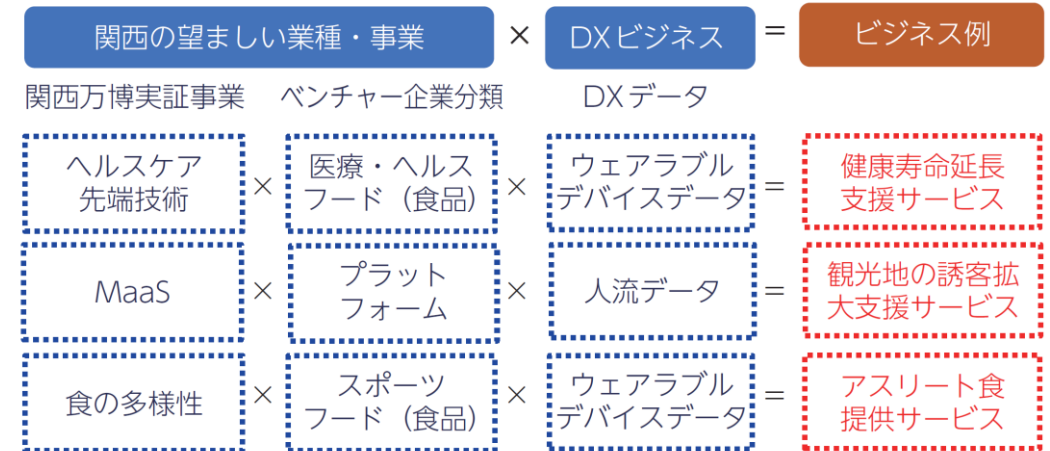


図 6-2-2

新たなビジネスの発掘事例

出所) 筆者作成



- ◆ 関西における各産業の年齢構成をみれば、
- ◆ **15～34歳の若年層が占める割合が下位3位である産業はその他サービス業、建設業と運輸業・郵便業**
- ◆ **65歳以上の高齢層が占める割合が上位3位である産業は、その他サービス業、生活関連サービス業・娯楽業と建設業**
- ◆ **建設業**では高齢化と若年層が不足。将来、生活機能を維持するサービスと公共投資に大幅な供給制約が起こることを示唆
- ◆ **DXの活用やICT化の促進による生産性の向上が不可欠、人材育成コンソーシアムも重要**

表4-1-5

各産業における就業者の年齢構成（2023年第1四半期，関西）

|                 | 15～34歳 | 35～64歳 | 65歳以上 |
|-----------------|--------|--------|-------|
| 建設業             | 15.9   | 66.7   | 17.4  |
| 製造業             | 27.3   | 64.2   | 8.6   |
| 情報通信業           | 35.7   | 60.7   | 3.6   |
| 運輸業・郵便業         | 17.2   | 72.4   | 10.3  |
| 卸売業・小売業         | 26.2   | 62.2   | 11.6  |
| 学術研究・専門・技術サービス業 | 22.9   | 62.9   | 14.3  |
| 宿泊業・飲食サービス業     | 43.1   | 44.8   | 12.1  |
| 生活関連サービス業・娯楽業   | 30.3   | 48.5   | 21.2  |
| 教育・学習支援業        | 31.0   | 58.6   | 10.3  |
| 医療・福祉           | 23.1   | 65.3   | 11.6  |
| その他サービス業        | 13.7   | 63.0   | 23.3  |

注) 単位は%である。  
出所) 総務省統計局「労働力調査」

## 【1.物価と賃金の好循環メカニズムを目指して：短期的な分析】

- Introduction & Chap.3 Sec.1 物価と賃金の好循環メカニズム
- Chap.3 Sec.2 & Sec.3 日本経済・関西経済の現況と短期予測
- Chap.3 Sec.4 インフレと家計の負担

## 【2.儲かる産業構造とは：関西の産業構造の特徴を探る：長期的な分析】

- Chap.6 Sec.1 儲かる産業構造とは何か：基礎データによる洗い出し
- Chap.6 Sec.2 期待される関西の産業構造：投資・人材を呼び込むために
- Chap.4 Sec.1 関西労働市場の現状と課題

## 【3.インバウンドの回復と観光戦略】

- Chap.5 Sec.3 関西の観光戦略の10年間を振り返る
- Chap.5 Sec.1 2022年度関西観光の振り返り：インバウンドと国内旅行需要の回復

## 【4.拡張万博とDX】

- Chap.6 Sec.3 儲かる産業・地域に向けた実践事例：拡張万博と周遊化促進の経済効果
- Chap.4 Sec.2 関西・大阪におけるDXの活用

◆ 観光戦略10年の特徴を予算配分、大型ホテル建設の動向、中長期的な課題(SDGs、D&I)から振り返る。詳細は、Tourism Chronology

観光10年史 表1及び表2からの抜粋

| 年          | 出来事                            | 年          | 出来事                         |
|------------|--------------------------------|------------|-----------------------------|
| 2014/2/1   | リッツ・カールトン京都、鴨川二条に開業            | 2019/6/28  | G20大阪サミット2019が開催            |
| 2014/6/17  | 観光立国推進会議が訪日外国人2,000万人への行動計画を策定 | 2019/11/27 | 阪急阪神が梅田に「ホテルレスバイア」開業        |
| 2014/12/27 | 「まち・ひと・しごと創生総合戦略」閣議決定          | 2019/12/12 | 「国連観光・文化京都会議2019」が京都市内で開催   |
| 2015/2/9   | 大阪市が夢洲にIR誘致の方針を決定              | 2020/7/22  | 「GO TOトラベル」開始               |
| 2015/6/12  | 国交相が「広域観光ルート」7ルートの計画を認定        |            | マリオットが奈良市に最高級「JWマリオットH」開業   |
| 2015/10/27 | 大阪府議会が全国初の民泊条例を可決              | 2020/11/3  | 京都二条城近く最高級「ホテルザ三井」開業        |
| 2016/2/26  | 日本版DMO候補法人の第1弾として24団体が登録       | 2021/4/1   | 同一府県内の旅行が対象の「地域観光事業支援」が開始   |
| 2016/3/17  | 星野リゾート「星のや京都」改装開業              | 2021/3/16  | 仏フォションが京都に「フォションホテル京都」開業    |
| 2016/10/15 | 「フォーシーズンズ京都」東山区に開業             | 2021/3/30  | アパグループが再建中物件を買収し、新大阪駅タワー開業  |
| 2017/6/9   | 住宅宿泊事業法（民泊法）が成立                | 2022/4/22  | 星野リゾートが新今宮駅前にホテル「OMO7」開業    |
| 2017/11/28 | 日本版DMOの第1弾として41団体が登録           | 2022/10/11 | 全国を対象とする「全国旅行支援」が開始         |
| 2017/6/9   | ヒルトンが高級ホテル「コンラッド大阪」中之島に開業      | 2022/11/25 | インバウンドが再開し、関空の10月国際線旅客数30万人 |
| 2018/7/20  | IR実施法が参議院で可決、成立                | 2023/1/2   | 星野リゾートが譲渡物件運用した「OMO関西空港」を開業 |
| 2018/9/4   | 関空、台風21号被害で閉鎖                  | 2023/7/1   | 「セントラグランドH」なんばパークスサウスに開業    |
| 2018/12/17 | 観光庁が18年の訪日外客数3,000万人突破の記念式典開催  | 2023/8/29  | 「紫翠ラグジュアリーコレクションホテル奈良」開業    |

- ◆ 観光庁予算の動態をみれば、
- ◆ ①海外へのPR、②訪日外客の受入環境整備、③地域のコンテンツづくり、④コロナ禍への対応、⑤インバウンド需要回復、といった5つの局面に沿った予算編成の特徴
- ◆ 足下23年度はインバウンド需要の回復を受け、再び「外国誘客」の予算が増加。また、「地域誘客」も増加しており、インバウンド需要回復に備えた観光資源の磨き上げに注力

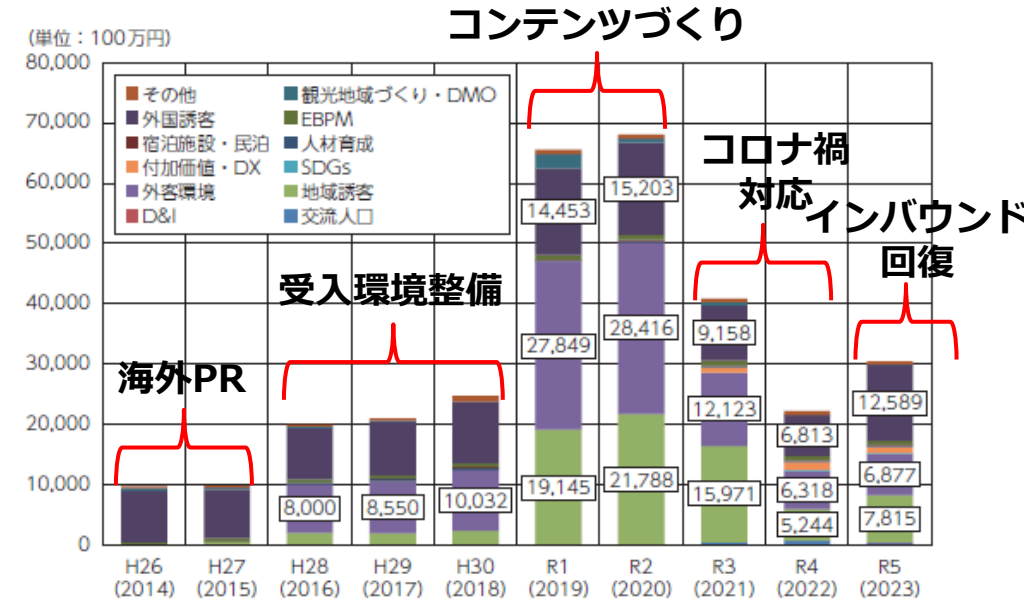


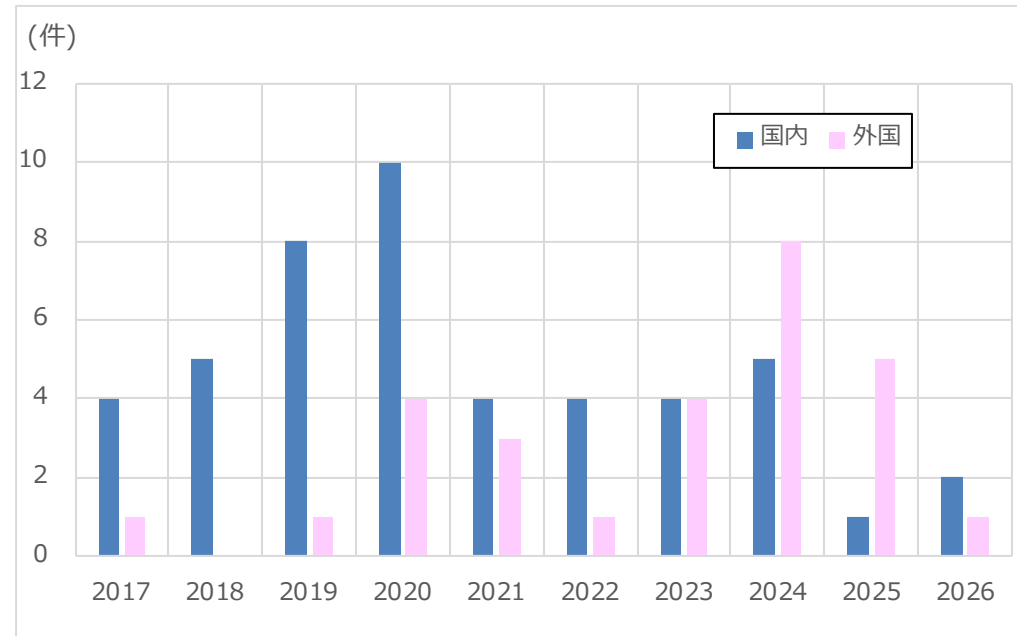
図5-3-2 費目別にみた観光庁予算額の推移

出所) 観光庁HPよりAPIR作成

- ◆ **大型ホテル開業のピークは20年。** 21～23年以降、コロナ禍によりペースは鈍化。**24年はコロナ禍からの回復を見据えて再び増加**
- ◆ **うち、国内ブランドは、** コロナ禍の影響で20年の10件が開業のピーク、21～23年以降は平均4件程度で推移
- ◆ **一方、外国ブランドは、** 20年に4件開業、21～22年は一旦減少したが、足下23年は再び増加。先行きは24年に8件、25年に5件が開業予定

【大型ホテルの選定基準】

- ・ 期 間 2017～2026年に完成または開業
- ・ 範 囲 滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
- ・ 選定基準 【建設事業費(試算)】40億円程度以上、【延床面積】3,000坪程度以上

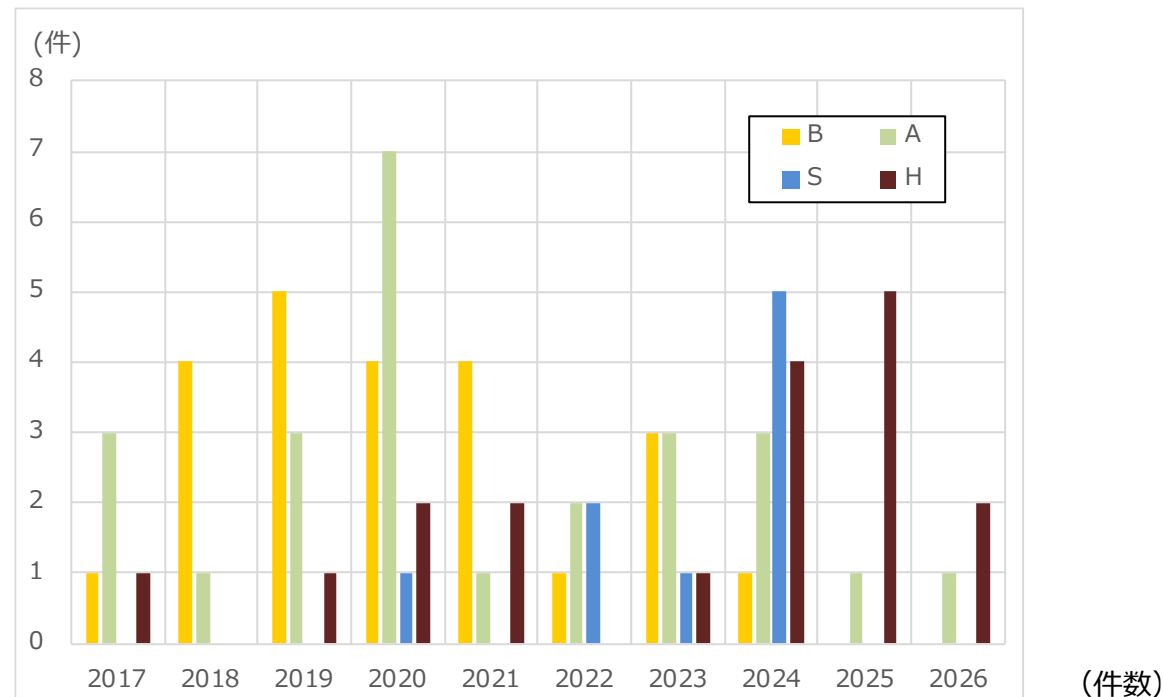


(件数)

|    | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 | 2024 | 2025 | 2026 | 計  |
|----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|----|
| 国内 | 4    | 5    | 8    | 10   | 4    | 4    | 4    | 5    | 1    | 2    | 47 |
| 外国 | 1    | 0    | 1    | 4    | 3    | 1    | 4    | 8    | 5    | 1    | 28 |
| 計  | 5    | 5    | 9    | 14   | 7    | 5    | 8    | 13   | 6    | 3    | 75 |

出所：アジア太平洋研究所「APIR Trend Watch No.87」

- ◆ 宿泊費のグレード別にみれば、2017年から20年までの計33件のうち、比較的リーズナブルな物件(B及びAクラス)は28件(約85%)
- ◆ 2023年以降は外国ブランドを中心に宿泊費の高い物件(S及びHクラス)が30件中、18件(60%)と増加
- ◆ 地理的分布をみれば、御堂筋沿い(大阪市)と東山区(京都市)に集中(次slide参照)



|   | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 | 2024 | 2025 | 2026 | 計  |
|---|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|----|
| B | 1    | 4    | 5    | 4    | 4    | 1    | 3    | 1    |      |      | 23 |
| A | 3    | 1    | 3    | 7    | 1    | 2    | 3    | 3    | 1    | 1    | 25 |
| S |      |      |      | 1    |      | 2    | 1    | 5    |      |      | 9  |
| H | 1    |      | 1    | 2    | 2    |      | 1    | 4    | 5    | 2    | 18 |
| 計 | 5    | 5    | 9    | 14   | 7    | 5    | 8    | 13   | 6    | 3    | 75 |

注：宿泊単価のグレードについては、B：1万円前後～、A：3万円前後～、S：5万円前後～、H：10万円前後～

# 1室当たりの建設事業費は外国ブランドが圧倒的に高い

P.160, P.218, P.219参照

- ◆ 内外ブランド別に、**建設事業費**と**1室当たりの建設事業費**の記述統計を比較
- ◆ **建設事業費**をみると、国内と外国ブランドでは**大きな差は見られないが、1室当たりでは外国ブランドの方が圧倒的に高い**
- ◆ **地理的分布**をみれば、**御堂筋沿い(大阪市)と東山区(京都市)**に集中

試算建設事業費 (百万円)

|            | 国内         | 外国         |
|------------|------------|------------|
| 平均         | 10,052     | 11,507     |
| 標準誤差       | 947        | 1,078      |
| 中央値 (メジアン) | 7,726      | 10,441     |
| 標準偏差       | 6,490      | 5,704      |
| 分散         | 42,118,138 | 32,531,823 |
| 範囲         | 29,178     | 20,337     |
| 最小         | 3,708      | 3,338      |
| 最大         | 32,886     | 23,674     |
| 合計         | 472,429    | 322,195    |
| データの個数     | 47         | 28         |

1室当たり事業費 (百万円)

|            | 国内    | 外国    |
|------------|-------|-------|
| 平均         | 38    | 70    |
| 標準誤差       | 5     | 7     |
| 中央値 (メジアン) | 26    | 67    |
| 標準偏差       | 32    | 37    |
| 分散         | 1,050 | 1,400 |
| 範囲         | 160   | 136   |
| 最小         | 8     | 17    |
| 最大         | 169   | 153   |
| 合計         | 1,785 | 1,951 |
| データの個数     | 47    | 28    |



# 急回復するインバウンド需要

## 【訪日外客数の推移】

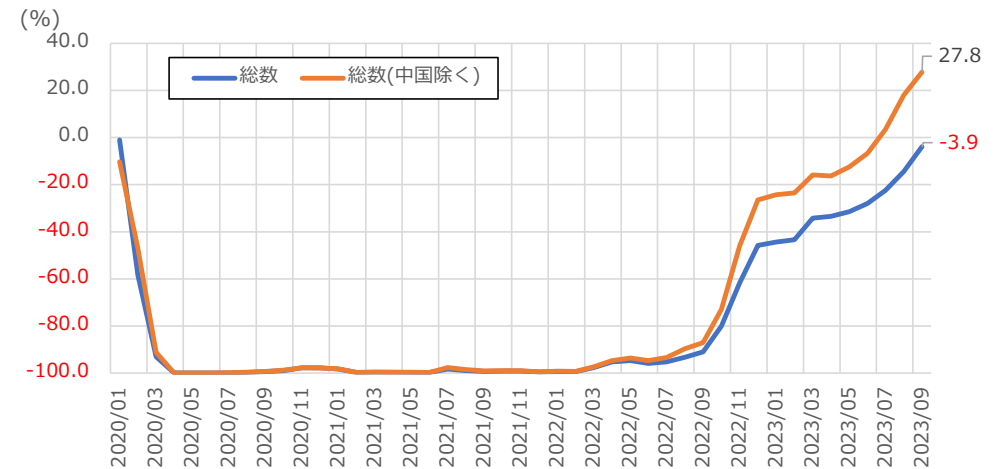
- ◆ 2023年7-9月期の訪日外客は666万1,894人で、コロナ禍前の8割強(19年同期比-14.4%)を回復
- ◆ 中国人客を除く総数は、23年7月にプラスに転じた\*。

## 【訪日外国人旅行消費額の推移】

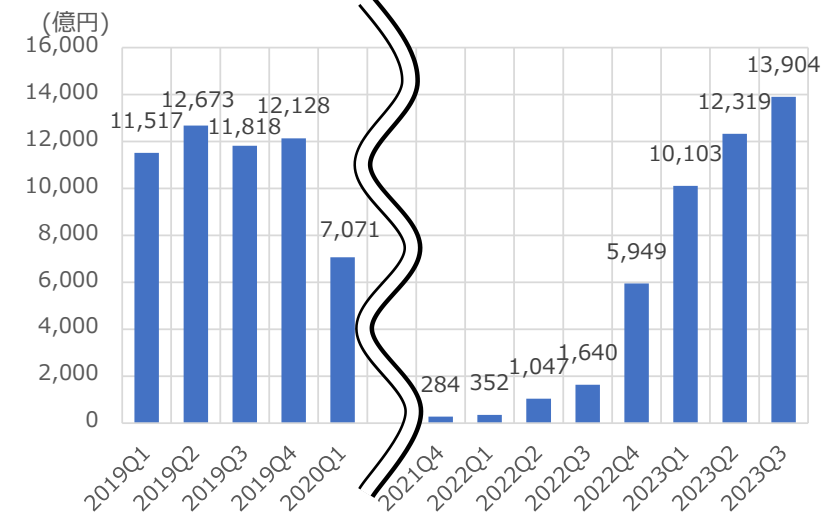
- ◆ 23年7-9月期の訪日外国人旅行消費額(速報、全目的ベース)は1兆3,904億円(1-9月期計：3兆6,326億円)。19年同期比+17.7%とコロナ禍前を上回った。消費単価は着実に上昇。この背景には円安や旅行者の嗜好の変化が影響

\* 中国人客の回復についての詳細な分析はAPIR Trend Watch No.88を参照

【訪日外客数及び中国人客を除く総数伸び率推移：2019年同月比】



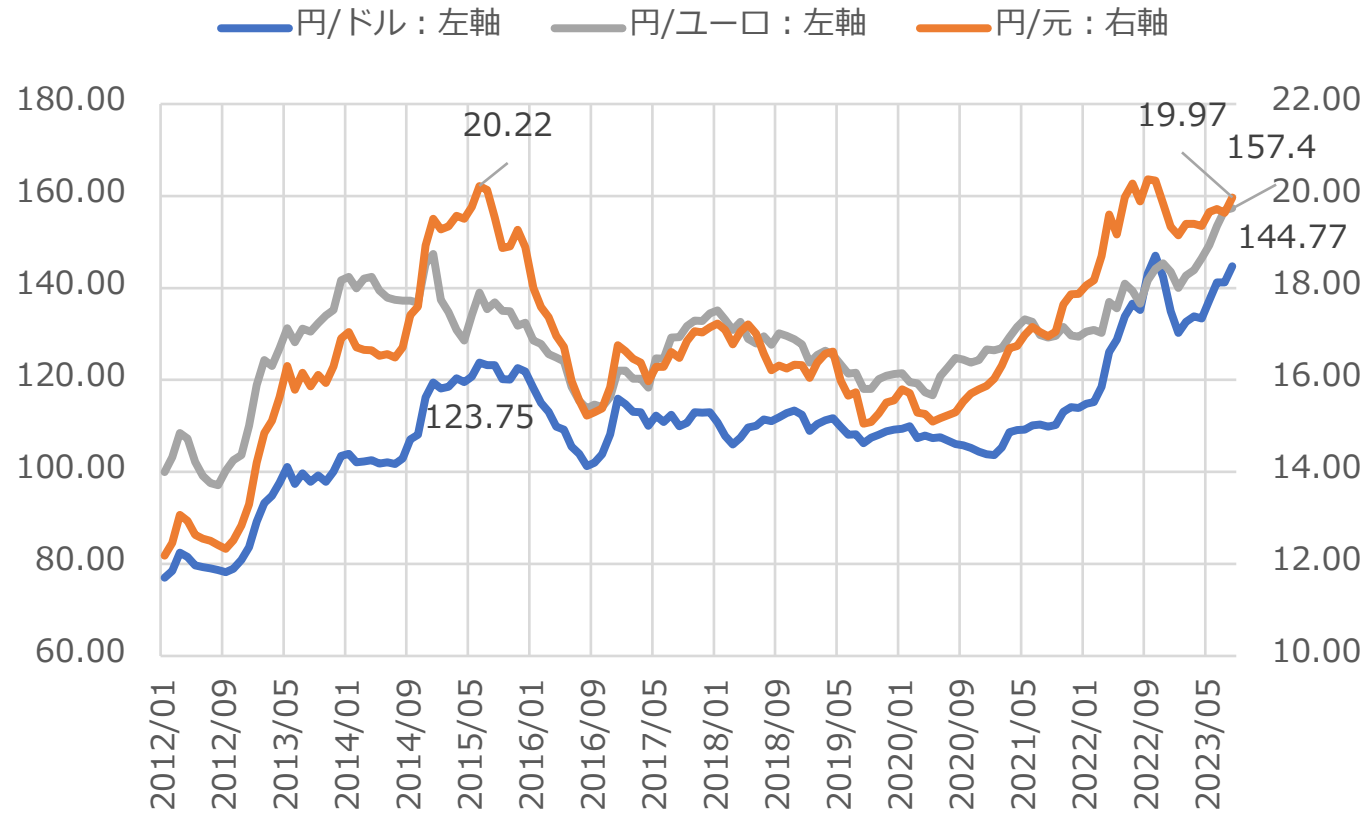
【訪日外国人旅行消費額の推移】





# 外国人の購買力：為替レート推移

## ◆ 円/元は爆買い時代に、円/ドル、円/ユーロは爆買い時期を超える



# 外国人消費単価の上昇と伸びる泊数

P.140参照

## 【訪日外客消費単価と平均泊数の比較】

- ◆ 2023年7-9月期(10/18発表)1人当たり旅行支出は2019年同期比+29.4%、三四半期連続でコロナ禍前を上回った(1-3月期：同+43.8%、4-6月期：同+34.7%)。引き続き2桁の伸びが続く
- ◆ 国・地域別にみれば、フランスが最も高い。次いで、英国、オーストラリア、米国、中国と続く
- ◆ 平均泊数をみれば、全体で0.8泊増加(1-3月期：+5.4泊、4-6月期：+2.0泊)。

### 【1人当たり旅行支出：2023年7-9月期：19年同期比】

| 国・地域            | 全体      | 韓国      | 台湾      | 香港      | 中国      | タイ      | 英国      | ドイツ     | フランス    | 米国      | オーストラリア |
|-----------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 2019年7-9月期(円/人) | 162,860 | 87,032  | 114,360 | 153,544 | 203,576 | 149,850 | 177,608 | 189,867 | 255,267 | 198,736 | 218,474 |
| 2023年7-9月期(円/人) | 210,810 | 110,686 | 177,823 | 233,887 | 284,934 | 180,543 | 328,422 | 274,691 | 357,775 | 291,537 | 320,286 |
| 19年同期比(%)       | +29.4   | +27.2   | +55.5   | +52.3   | +40.0   | +20.5   | +84.9   | +44.7   | +40.2   | +46.7   | +46.6   |

### 【平均泊数：2023年7-9月期：19年同期差】

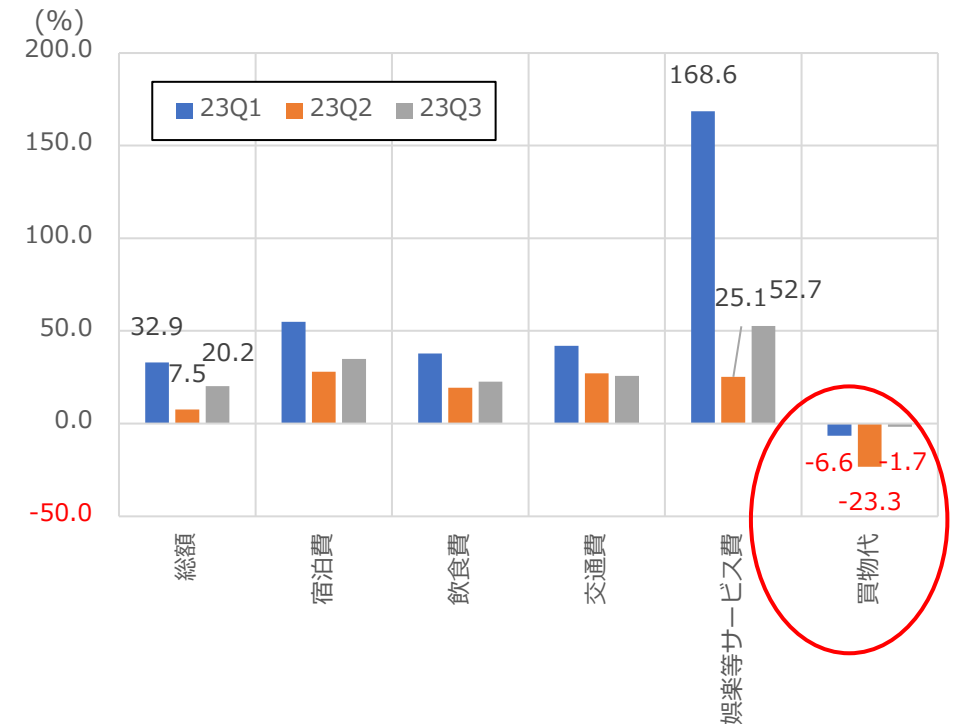
| 国・地域          | 全体   | 韓国   | 台湾   | 香港   | 中国   | タイ   | シンガポール | マレーシア | インドネシア | フィリピン   | ベトナム |
|---------------|------|------|------|------|------|------|--------|-------|--------|---------|------|
| 2019年7-9月期(泊) | 10.4 | 7.6  | 6.7  | 6.7  | 7.7  | 20.0 | 9.1    | 16.8  | 19.7   | 25.6    | 36.3 |
| 2023年7-9月期(泊) | 11.2 | 4.9  | 7.5  | 7.6  | 14.6 | 16.0 | 11.9   | 10.2  | 18.5   | 24.6    | 30.4 |
| 19年同期差(泊)     | +0.8 | -2.7 | +0.8 | +0.9 | +6.9 | -4.0 | +2.8   | -6.6  | -1.2   | -1.0    | -5.9 |
| 国・地域          | インド  | 英国   | ドイツ  | フランス | イタリア | スペイン | ロシア    | 米国    | カナダ    | オーストラリア | その他  |
| 2019年7-9月期(泊) | 21.7 | 12.7 | 12.4 | 24.5 | 12.7 | 16.1 | 24.6   | 14.1  | 12.1   | 11.9    | 18.5 |
| 2023年7-9月期(泊) | 22.7 | 17.7 | 14.6 | 20.4 | 11.8 | 16.2 | -      | 12.8  | 13.2   | 13.4    | 23.3 |
| 19年同期差(泊)     | +1.0 | +5.0 | +2.2 | -4.1 | -0.9 | +0.1 | -      | -1.3  | +1.1   | +1.5    | +4.8 |

# 外国人消費単価を1人1泊当たりで見れば

## 【訪日外客1人1泊当たり消費単価の比較】

- ◆ 2023年7-9月期の1人1泊当たり消費単価をみれば、19年同期比+20.2%増加。23年に入り、増加傾向を維持
- ◆ 費目別では、宿泊費、飲食費、交通費、娯楽等サービス費がいずれも増加。一方、買物代は減少。コロナ禍以降、モノ消費からコト消費へと訪日外客の嗜好が変化が確認できる

【1人1泊当たり消費単価伸び率：2019年比】



出所：観光庁『訪日外国人消費動向調査』より作成

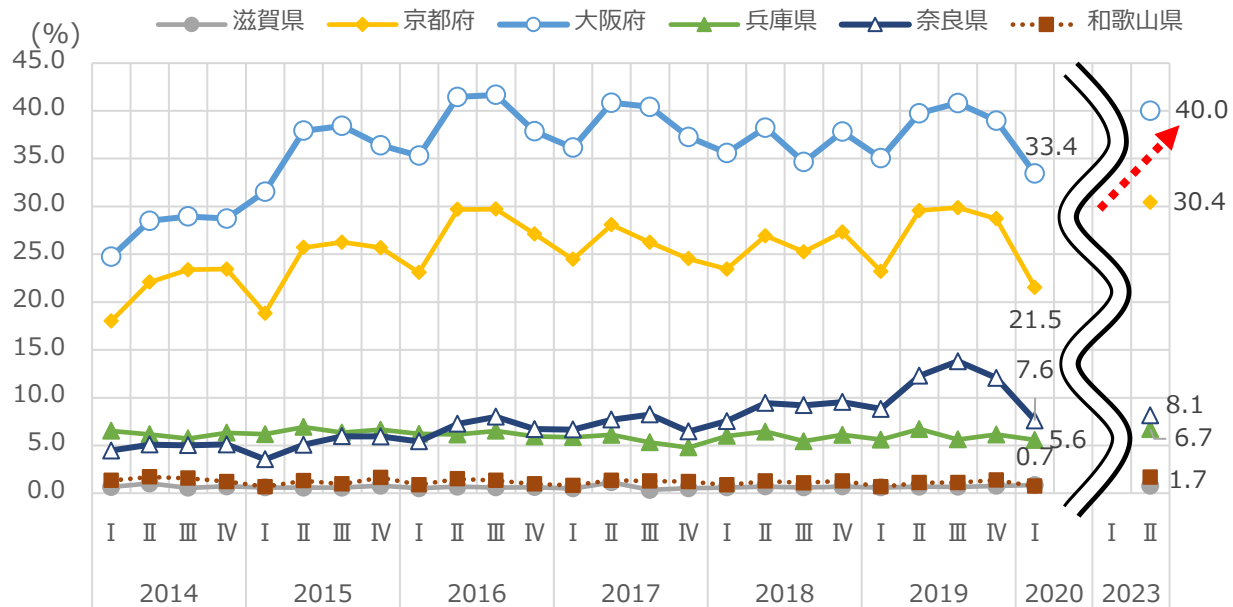
# 関西の訪問率と消費単価をみれば

## 【訪日外客の訪問率：関西】

- ◆ 今回3年ぶりに新たに発表(9/29)された2023年4-6月期の訪問率をみれば、大阪府(40.0%)、京都府(30.4%)、奈良県(8.1%)や兵庫県(6.7%)が前回から上昇

## 【訪日外客1人当たり消費単価の比較：関西】

- ◆ 費目別消費単価をみれば、関西においても買物代の減少が確認できる。コト消費拡大の兆し



## 【費目別訪日外国人消費単価：関西：2019年比】

|                      | 消費単価        | 費目別 (7区分)   |             |             |             |              |              |            |
|----------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|--------------|--------------|------------|
|                      |             | 宿泊費         | 飲食費         | 交通費         | 娯楽等サービス費    | 買物代          | その他          |            |
| 2019年4-6月期<br>(万円/人) | 滋賀県         | 3.4         | 1.0         | 0.9         | 0.1         | 0.0          | 0.5          | 0.0        |
|                      | 京都府         | 3.3         | 1.1         | 0.8         | 0.1         | 0.1          | 0.7          | 0.0        |
|                      | 大阪府         | 7.1         | 1.2         | 1.2         | 0.1         | 0.2          | 3.5          | 0.0        |
|                      | 兵庫県         | 2.6         | 0.7         | 0.7         | 0.0         | 0.0          | 0.6          | 0.0        |
|                      | 奈良県         | 0.7         | 0.1         | 0.2         | 0.0         | 0.1          | 0.2          | 0.0        |
|                      | 和歌山県        | 3.9         | 1.5         | 0.7         | 0.0         | 0.1          | 0.5          | 0.0        |
|                      | <b>2府4県</b> | <b>3.5</b>  | <b>0.9</b>  | <b>0.8</b>  | <b>0.1</b>  | <b>0.1</b>   | <b>1.0</b>   | <b>0.0</b> |
| 2023年4-6月期<br>(万円/人) | 滋賀県         | 4.3         | 1.5         | 1.3         | 0.1         | 0.1          | 0.2          | 0.0        |
|                      | 京都府         | 5.3         | 2.1         | 1.3         | 0.2         | 0.2          | 0.9          | 0.0        |
|                      | 大阪府         | 9.1         | 2.6         | 2.1         | 0.3         | 0.5          | 3.0          | 0.0        |
|                      | 兵庫県         | 3.5         | 1.1         | 1.0         | 0.0         | 0.3          | 0.6          | 0.0        |
|                      | 奈良県         | 0.9         | 0.2         | 0.3         | 0.0         | 0.1          | 0.1          | 0.0        |
|                      | 和歌山県        | 3.3         | 1.3         | 0.7         | 0.1         | 0.0          | 0.6          | 0.0        |
|                      | <b>2府4県</b> | <b>4.4</b>  | <b>1.5</b>  | <b>1.1</b>  | <b>0.1</b>  | <b>0.2</b>   | <b>0.9</b>   | <b>0.0</b> |
| 19年同期比(%)            | 滋賀県         | 27.4        | 46.3        | 47.2        | -9.8        | 267.4        | -58.5        | -          |
|                      | 京都府         | 60.9        | 98.6        | 63.3        | 141.7       | 50.0         | 21.6         | -          |
|                      | 大阪府         | 27.1        | 110.0       | 78.1        | 101.5       | 130.9        | -14.0        | -          |
|                      | 兵庫県         | 37.1        | 65.8        | 34.1        | -16.3       | 694.0        | -10.2        | -          |
|                      | 奈良県         | 15.8        | 62.0        | 87.1        | 122.6       | 32.6         | -26.3        | -          |
|                      | 和歌山県        | -15.5       | -13.4       | -3.3        | 14.0        | -74.7        | 15.6         | -          |
|                      | <b>2府4県</b> | <b>25.4</b> | <b>56.9</b> | <b>49.4</b> | <b>65.9</b> | <b>112.3</b> | <b>-10.5</b> | <b>-</b>   |

注：消費単価にはパッケージ参加費が含まれる

## 【1.物価と賃金の好循環メカニズムを目指して：短期的な分析】

- Introduction & Chap.3 Sec.1 物価と賃金の好循環メカニズム
- Chap.3 Sec.2 & Sec.3 日本経済・関西経済の現況と短期予測
- Chap.3 Sec.4 インフレと家計の負担

## 【2.儲かる産業構造とは：関西の産業構造の特徴を探る：長期的な分析】

- Chap.6 Sec.1 儲かる産業構造とは何か：基礎データによる洗い出し
- Chap.6 Sec.2 期待される関西の産業構造：投資・人材を呼び込むために
- Chap.4 Sec.1 関西労働市場の現状と課題

## 【3.インバウンドの回復と観光戦略】

- Chap.5 Sec.3 関西の観光戦略の10年間を振り返る
- Chap.5 Sec.1 2022年度関西観光の振り返り：インバウンドと国内旅行需要の回復

## 【4.拡張万博とDX】

- Chap.6 Sec.3 儲かる産業・地域に向けた実践事例：拡張万博と周遊化促進の経済効果
- Chap.4 Sec.2 関西・大阪におけるDXの活用

# 拡張万博の経済効果update

- ◆ **関西地域間産業連関表**を用いて、**大阪・関西万博の経済効果**を再試算
- ◆ **基準ケース**(夢洲会場に限定)に加え、「**拡張万博**」\*により、**宿泊者の泊数が増加するケース1**と、**日帰り旅行者が20%増加するケース2**を検討。また国内客及び海外客の旅行1日当たりの支出額(単価)を最新データにupdate

\* 「**拡張万博**」とは、万博の**テーマ・時間軸・空間軸の概念を拡張**し、関西全体を仮想的なパビリオンに見立て、万博本体では実施しにくい経済活動を展開する取り組み(参考：近畿経済産業局 2025NEXT関西企画室)

# 最終需要の想定：投資的支出

## ◆変更を迫られる大阪・関西万博の投資支出額

### 大阪・関西万博に伴う投資支出額等

1-1. 会場建設費（主催者）

（億円）

|                     |       |
|---------------------|-------|
| 基盤整備（土木造成、舗装、修景工事等） | 130   |
| 基盤設備整備（電気、給排水工事等）   | 285   |
| 駐車場、エントランス          | 171   |
| パビリオン施設、サービス施設      | 1,103 |
| 会場内演出               | 50    |
| その他（調査設計費、事務費）      | 108   |
| 合計                  | 1,847 |

2-1. 運営費（主催者）

200億円前後増加

|             |     |
|-------------|-----|
| 企画事業・輸送事業等  | 565 |
| 会場管理・管理人件費等 | 146 |
| 広告・宣伝等      | 58  |
| 計画・事業調整等    | 39  |
| 合計          | 809 |

3. 関連基盤整備

|                          |       |
|--------------------------|-------|
| 鉄道整備等（地下鉄中央線延伸および輸送力増強等） | 610   |
| 道路改良等（此花大橋・夢舞大橋拡幅等）      | 250   |
| 南エリア埋立の追加工事費用            | 89    |
| その他                      | 179   |
| 合計                       | 1,128 |

⇒500億円程度に増加し、2,350億円に

関連基盤計 1,128

1-2. 会場建設費（出展者）

|                |     |
|----------------|-----|
| パビリオン施設、サービス施設 | 495 |
| 会場内演出          | 49  |
| その他（調査設計費、事務費） | 106 |
| 合計             | 650 |

2-2. 運営費（出展者）

|             |       |
|-------------|-------|
| 会場管理・管理人件費等 | 876   |
| 広告・宣伝等      | 350   |
| 計画・事業調整等    | 234   |
| 合計          | 1,460 |

建設費計 2,497

運営費計 2,269

合計 5,894

# 最終需要の想定：消費的支出

P.190参照

- ◆ **来場者の消費支出：来場者数×1人当たりの消費単価**
- ◆ **来場者数の想定：国内2,470万人、うち関西から約1,560万人、関西以外から約910万人(1泊：大阪府)、海外は約350万人(3泊：大阪府含む)と計2,820万人**
- ◆ **拡張万博の想定：ケース1では国内宿泊客の泊数は1泊2日から2泊3日、海外客は3泊4日から5泊6日に増加。ケース2ではケース1に加えて、国内日帰り客が更に20%増加し、大阪以外の当該地域を訪問**

来場者による消費支出(単位：億円)

基準ケース

|        | 国内<br>日帰り客 | 国内<br>宿泊客 | 海外    | 計     |
|--------|------------|-----------|-------|-------|
| 交通費    | 1,196      | 738       | 198   | 2,132 |
| 宿泊費    | 0          | 838       | 562   | 1,400 |
| 飲食費    | 540        | 404       | 412   | 1,356 |
| 買物代    | 832        | 357       | 633   | 1,822 |
| 娯楽サービス | 777        | 303       | 76    | 1,155 |
| 計      | 3,344      | 2,640     | 1,881 | 7,866 |

拡張万博ケース1(宿泊増)

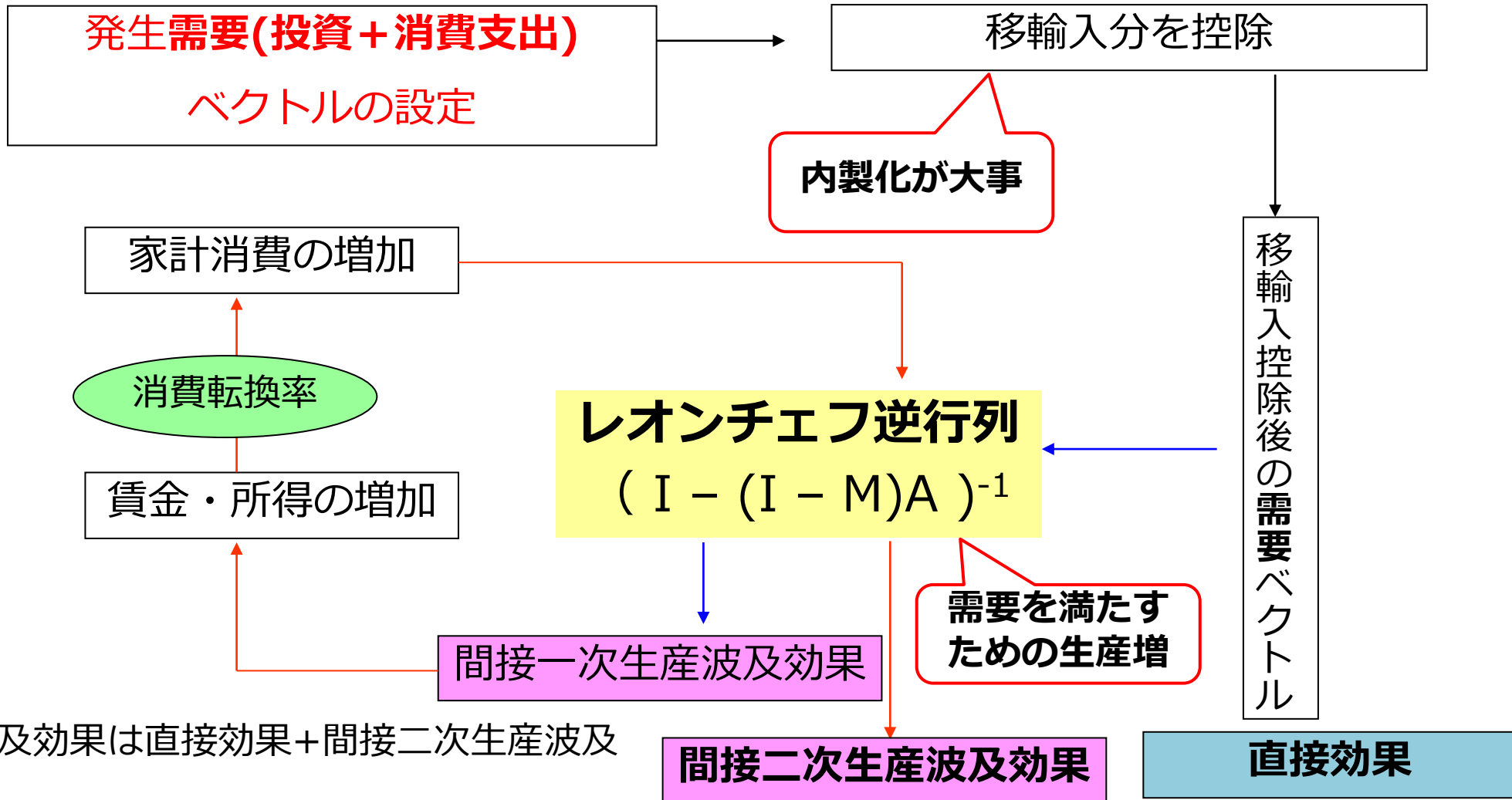
|        | 国内<br>日帰り客 | 国内<br>宿泊客 | 海外    | 計      |
|--------|------------|-----------|-------|--------|
| 交通費    | 1,196      | 1,107     | 297   | 2,600  |
| 宿泊費    | 0          | 1,676     | 937   | 2,613  |
| 飲食費    | 540        | 606       | 619   | 1,765  |
| 買物代    | 832        | 357       | 633   | 1,822  |
| 娯楽サービス | 777        | 454       | 114   | 1,345  |
| 計      | 3,344      | 4,201     | 2,599 | 10,144 |

拡張万博ケース2(宿泊増+日帰り客増)

|        | 国内<br>日帰り客 | 国内<br>宿泊客 | 海外    | 計      |
|--------|------------|-----------|-------|--------|
| 交通費    | 1,435      | 1,107     | 297   | 2,839  |
| 宿泊費    | 0          | 1,676     | 937   | 2,613  |
| 飲食費    | 648        | 606       | 619   | 1,873  |
| 買物代    | 832        | 357       | 633   | 1,822  |
| 娯楽サービス | 932        | 454       | 114   | 1,500  |
| 計      | 3,847      | 4,201     | 2,599 | 10,646 |



# 経済波及効果の計算フロー



注：経済波及効果は直接効果+間接二次生産波及効果で計算

# 拡張万博の経済効果

P.190参照

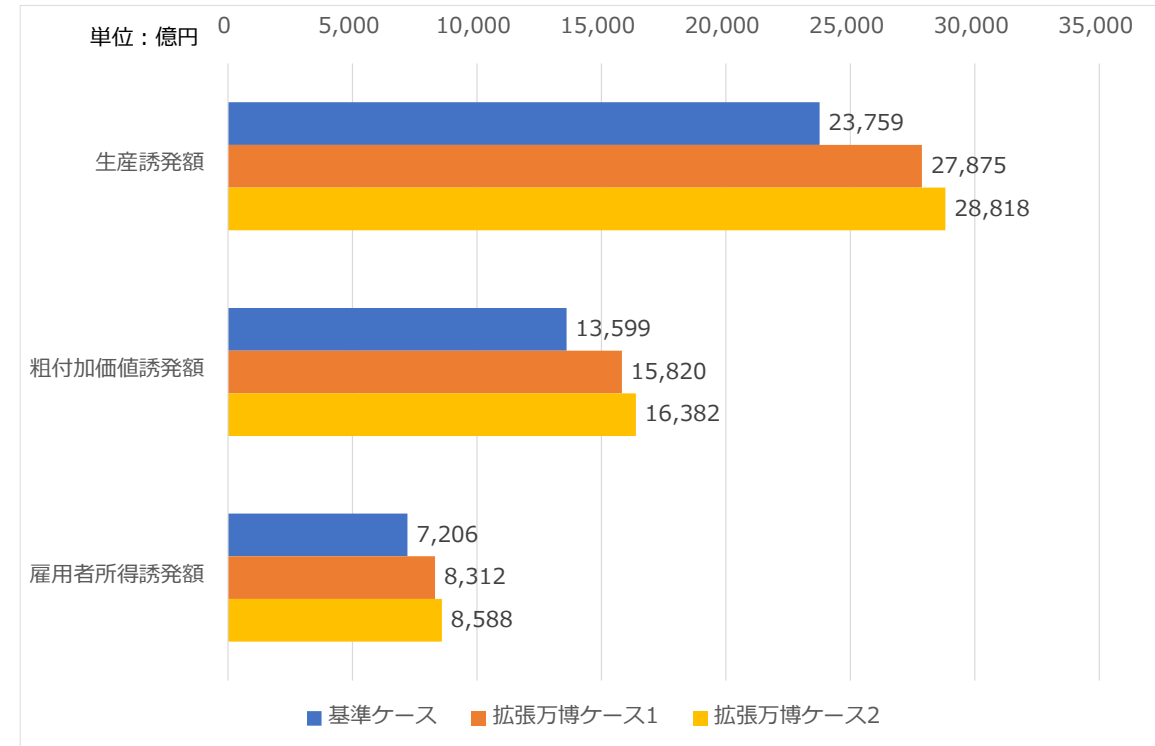
◆以上の想定を基に**拡張万博の経済効果**を推計

◆「基準ケース」と「拡張万博ケース1と2」の経済効果を比較

◆生産誘発額は、

- ① 基準ケース：2兆3,759億円
- ② 拡張万博ケース1：2兆7,875億円
- ③ 拡張万博ケース2：2兆8,818億円

◆**拡張万博の効果**を考慮した場合、**基準ケース**より約4千～5千億円程度(17～21%)の上振れ



|          | 基準ケース  | 拡張万博ケース1 | 拡張万博ケース2 | 上振れ：ケース1 | 上振れ：ケース2 |
|----------|--------|----------|----------|----------|----------|
| 単位       | 億円     | 億円       | 億円       | %        | %        |
| 生産誘発額    | 23,759 | 27,875   | 28,818   | 17.3     | 21.3     |
| 粗付加価値誘発額 | 13,599 | 15,820   | 16,382   | 16.3     | 20.5     |
| 雇用者所得誘発額 | 7,206  | 8,312    | 8,588    | 15.3     | 19.2     |

# 拡張万博の経済効果：府県別波及効果

P.191参照

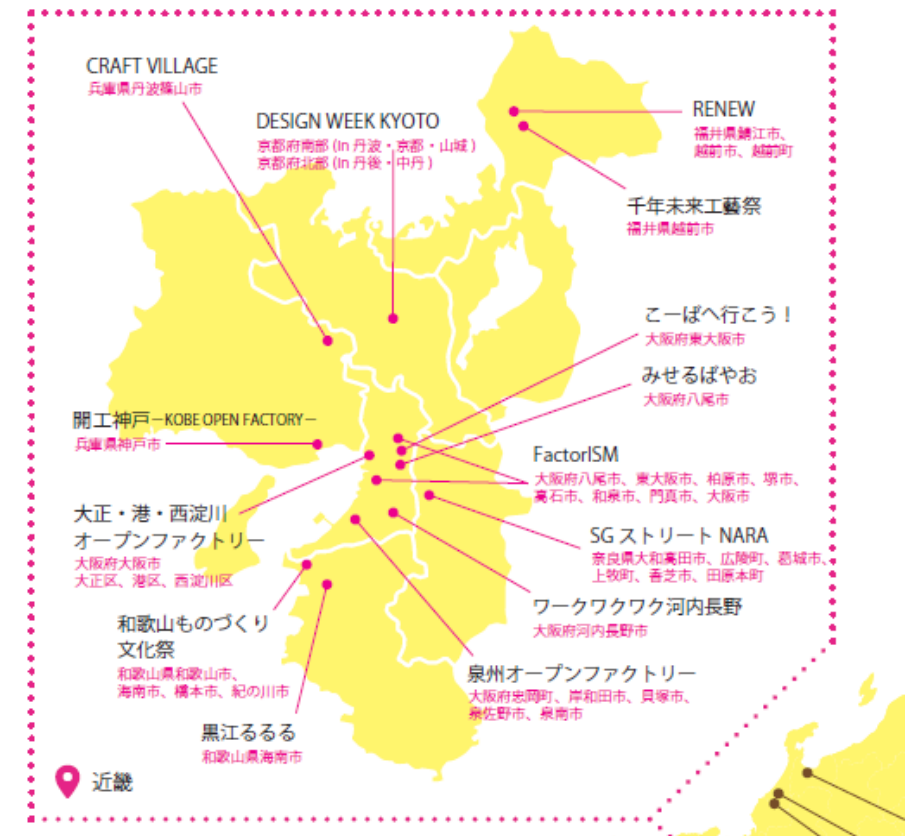
- ◆大阪府の経済効果：基準ケースは74.5%、拡張万博ケース1は64.3%、ケース2は62.4%。延泊(ケース1)と日帰り客の増加(ケース2)により、各府県への経済効果がさらに高まる
- ◆関西全体のパビリオン化(拡張万博)は経済効果が地域により均霑するため、決定的に重要

|             | 基準ケース  | 拡張万博ケース1 | 拡張万博ケース2 | 拡張万博<br>ケース1-基準 | 拡張万博<br>ケース2-基準 | 拡張万博<br>ケース2-ケース1 | 基準ケース<br>シェア | 拡張万博ケース1<br>シェア | 拡張万博ケース2<br>シェア |
|-------------|--------|----------|----------|-----------------|-----------------|-------------------|--------------|-----------------|-----------------|
| 福井          | 70     | 251      | 288      | 181             | 218             | 37                | 0.3          | 0.9             | 1.0             |
| 三重          | 313    | 664      | 795      | 351             | 482             | 131               | 1.3          | 2.4             | 2.8             |
| 滋賀          | 183    | 399      | 469      | 216             | 286             | 70                | 0.8          | 1.4             | 1.6             |
| 京都          | 223    | 1,618    | 1,779    | 1,395           | 1,556           | 161               | 0.9          | 5.8             | 6.2             |
| 大阪          | 17,707 | 17,927   | 17,974   | 220             | 267             | 46                | <b>74.5</b>  | <b>64.3</b>     | <b>62.4</b>     |
| 兵庫          | 684    | 1,318    | 1,532    | 634             | 848             | 214               | 2.9          | 4.7             | 5.3             |
| 奈良          | 97     | 169      | 216      | 72              | 119             | 47                | 0.4          | 0.6             | 0.8             |
| 和歌山         | 177    | 343      | 383      | 166             | 206             | 40                | 0.7          | 1.2             | 1.3             |
| 鳥取          | 28     | 151      | 183      | 123             | 155             | 32                | 0.1          | 0.5             | 0.6             |
| 徳島          | 75     | 182      | 205      | 107             | 130             | 23                | 0.3          | 0.7             | 0.7             |
| その他地域(関西以外) | 4,201  | 4,854    | 4,994    | 652             | 792             | 140               | 17.7         | 17.4            | 17.3            |
| 総計          | 23,759 | 27,875   | 28,818   | 4,116           | <b>5,059</b>    | <b>943</b>        | 100.0        | 100.0           | 100.0           |

# 拡張万博の事例(1)：オープンファクトリー

- ◆ <拡張万博の事例としてのオープンファクトリー>
- ◆ 地域一体型オープンファクトリーとは、ものづくりに関わる中小企業や工芸品産地など、産業集積がみられる地域を中心に、企業単独ではなく、地域内の企業等が集まり、**生産現場を外部に公開**したり、**来場者にもものづくりを体験**してもらおう取組

## I. 全国の地域一体型オープンファクトリー MAP - 全国の地域一体型オープンファクトリー MAP-



出所：近畿経済産業局『OPEN FACTORY REPORT 1.0』

# 拡張万博の事例(2)

| イベント名称                 | 該当自治体   | 主催                          | 開始年   | 開催回数      | 開催期間                        | 参加企業                             | 来訪者数                             |
|------------------------|---|-----------------------------|-------|-----------|-----------------------------|----------------------------------|----------------------------------|
| DESIGN WEEK KYOTO      | 丹波・京都・山城：京都府南部（亀岡市、京都市、宇治市、南丹市、長岡京市）<br>丹後・中丹：京都府北部（京丹後市、与謝野町、宮津市、舞鶴市、綾部市、福知山市） | （一社）Design Week Kyoto 実行委員会 | 2016年 | 8回        | 2月頃（丹波・京都・山城） / 11月頃（丹後・中丹） | 48社（丹波・京都・山城） / 26社（丹後・中丹）       | 約1,500人（丹波・京都・山城） / 約650人（丹後・中丹） |
| 大正・港・西淀川オープンファクトリー     | 大阪市大正区・港区・西淀川区  | 大正・港・西淀川ものづくり事業実行委員会        | 2015年 | 7回        | 例年 11月頃 / 2日間               | 約50社                             | 約150人                            |
| FactorISM              | 大阪府八尾市、東大阪市、柏原市、堺市、高石市、和泉市、門真市、大阪市  | まちのこうほうぶ（FactorISM 実行委員会）   | 2020年 | 3回        | 例年 10月頃 / 4日間程度             | 60社                              | 9,000人以上（リアル参加者）                 |
| 泉州オープンファクトリー           | 大阪府忠岡町、岸和田市、貝塚市、泉佐野市、泉南市  | 泉州オープンファクトリー実行委員会           | 2021年 | 2回        | 11月～12月頃 / 3日間程度            | 27社                              | 約500人（2022年）                     |
| みせるばやお                 | 大阪府八尾市  | 株式会社みせるばやお                  | 2018年 | 常設        | 常設                          | 130社（2023年1月末時点）                 | 約8.4万人（2023年1月末時点）               |
| ワークワクワク河内長野            | 大阪府河内長野市  | 河内長野市                       | 2022年 | 1回        | 11月下旬                       | 18社                              | 約800人                            |
| こーばへ行こう！               | 大阪府東大阪市   | 東大阪市                        | 2018年 | 6回        | 10～11月 / 2日間                | 正会員24社、準会員3社、賛助会員1社（※2022年12月現在） | 約4,300人（2022年）                   |
| 開工神戸-KOBE OPEN FACTORY | 兵庫県神戸市  | 神戸市                         | 2023年 | 1回        | 例年 3月上旬 / 1日間               | 15社（2023年）                       | 未定                               |
| CRAFT VILLAGE          | 兵庫県丹波篠山市  | 丹波篠山クラフトヴィレッジ製作委員会          | 2021年 | 4回        | 5月頃（春開催）10～11月（秋開催）         | 32社（2022年秋）                      | 約1,200人（2022年秋）                  |
| SG ストリートNARA           | 奈良県大和高田市、広陵町、葛城市、上牧町、香芝市、田原本町   | （一社）サステナブルジェネレーション          | 2021年 | 1回（2021年） | 6月頃                         | 21社（2021年）                       | 40人（2021年）                       |
| 和歌山ものづくり文化祭            | 和歌山県和歌山市、海南市、橋本市、紀の川市   | 和歌山オープンファクトリー推進委員会          | 2022年 | 1回        | 11月                         | 20社・事業者                          | 延べ約5,800人（2022年）                 |
| 黒江るるる                  | 和歌山県海南市   | 黒江あるく・みる・つくる実行委員会           | 2020年 | 3回        | 11月頃                        | 7社                               | 約162人（2022年）                     |

- ◆ 広域観光促進による経済効果
- ◆ 関西観光本部の取組：訪日外客を対象とする広域観光ルート「THE EXCITING KANSAI」を作成
- ◆ 広域観光ルートのうち、事例として山陰海岸エリアでのモデルコースを取り上げ(表6-3-4)、訪日外客の高付加価値化型の旅行需要が実現した際の経済効果を試算

表6-3-4

「THE EXCITING KANSAI」での山陰海岸エリア周遊ツアーの概要

|  |
|--|
| ツアー名：Kinosaki~Tango Peninsula~Amanohashidate 3 days / 2 nights   |
| 料金：128,000円/人  |
| ルート：関空→城崎温泉→天橋立→関空   |
| 1日目：関西空港到着後、レンタカーを借りて出発<br><b>【おすすめモデルコース】</b><br>出石そばの昼食と出石城下町を散策（辰鼓楼時計台、永楽館、匠の工芸品）<br><b>【おすすめオプション】</b><br>（出石エリア）そば打ち体験と昼食（所要時間約1時間）<br>（豊岡エリア）豊岡KABAN職人街でお買い物<br><b>【宿泊施設】</b><br>西村屋ホテル招月庭または同等クラス ※夕食・朝食付   |
| 2日目：宿泊施設で朝食をとり、チェックアウト。セルフツアー後、天橋立地区の宿泊施設へ<br><b>【おすすめモデルコース】</b><br>城崎温泉ロープウェイで末代山温泉寺と展望台へ<br>和久傳森工芸館にて昼食<br>ちりめん街道・旧尾藤家住宅見学<br><b>【おすすめオプション】</b><br>（城崎エリア）城崎わら細工体験（所要時間約1時間）<br>（京丹後エリア）本格的な縮緬着物の着付け&ウォーキング体験（所要時間約4時間）<br>縮緬コースター作り・手織り体験（所要時間約1時間）<br><b>【宿泊施設】</b><br>「天橋立離宮 星音」または同等クラス（夕食・朝食付き） |
| 3日目：ホテルで朝食・チェックアウト。丹後半島をセルフドライブツアー、関空に帰着<br><b>【おすすめモデルコース】</b><br>伊根舟屋周辺散策<br>“舟屋レストラン”または“わだつみ”での海鮮料理ランチ<br>天橋立（元伊勢 籠神社・笠松公園）<br><b>【おすすめオプション】</b><br>（伊根エリア）舟屋ガイドと行く伊根体験（グループツアー約1時間）<br>伊根e-bike/電動アシスト自転車レンタル（所要時間約30分）<br>海上タクシーによる伊根舟屋周辺観光（所要時間約30分）<br>伊根湾観光船（所要時間約30分）                         |

出所) 関西観光本部「THE EXCITING KANSAI」HPより作成

- ◆ **ベースケース(従来型の旅行ツアー)と高付加価値ケース(高付加価値ツアー)の違い** (表6-3-5)
- ◆ **宿泊費**：ベースケースでは比較的安価な宿泊費だが、高付加価値ケースでは**ラグジュアリーな施設での宿泊**を想定
- ◆ **買物代**：高付加価値ケースではツアーの行程に基づき、兵庫県で**豊岡カバン**、京都府で**伝統工芸品**の購入を想定
- ◆ 以上の単価を豊岡市の外国人延べ宿泊者数(2019年)に乘じ、APIR地域間産業連関表を用いて**高付加価値ツアーの経済効果を計測**

表6-3-5

各ケースでの1人当たり費用の比較

| (単位：円/人) | ベースケース |        | 高付加価値ケース |        |       |
|----------|--------|--------|----------|--------|-------|
|          | 兵庫県    | 京都府    | 兵庫県      | 京都府    | 大阪府   |
| 宿泊費      | 7,600  | 10,531 | 45,000   | 60,000 | 0     |
| 飲食費      | 8,412  | 8,598  | 1,200    | 6,030  | 0     |
| 交通費      | 545    | 778    | 935      | 1,953  | 8,599 |
| 娯楽サービス費  | 1,630  | 1,319  | 1,200    | 3,200  | 0     |
| 買物代      | 7,445  | 7,593  | 20,000   | 10,000 | 0     |
| その他      | 4,261  | 4,840  | 1,000    | 3,500  | 0     |

出所) 観光庁「訪日外国人消費動向調査」及び関西観光本部「THE EXCITING KANSAI」プログラム等より筆者作成

# 関西観光の周遊化・広域化・高付加価値化に向けた取り組み

P.196参照

- ◆生産誘発額、粗付加価値誘発額、雇用者所得誘発額をみれば(図6-3-5)、
- ◆いずれも高付加価値ケースの効果はベースケースの**2.5倍程度**
- ◆地域別にみれば、両ケースともに全体の効果のうち**京都府に約40%、兵庫県に約35%**
- ◆高付加価値ケースでは、京都府のシェアが上昇している一方、関西以外のシェアが減少
- ◆地域の観光資源を有効活用したツアーを実施することで、多くの**経済効果が地域内に留まる**(表6-3-6)

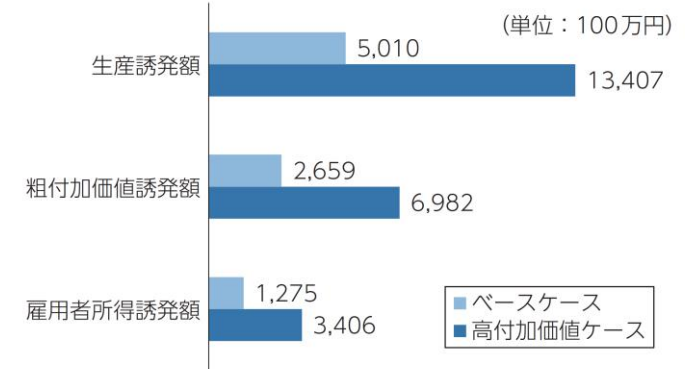


図6-3-5 各ケースの経済効果の比較

出所) 筆者作成

表6-3-6 地域別にみた生産誘発効果

|       | ベースケース           |            | 高付加価値ケース         |            | 両ケースの差<br>(100万円) |
|-------|------------------|------------|------------------|------------|-------------------|
|       | 生産誘発額<br>(100万円) | 地域別<br>シェア | 生産誘発額<br>(100万円) | 地域別<br>シェア |                   |
| 京都府   | 2,011            | 40.1%      | 5,523            | 41.2%      | 3,512             |
| 兵庫県   | 1,734            | 34.6%      | 4,595            | 34.3%      | 2,861             |
| 大阪府   | 273              | 5.5%       | 768              | 5.7%       | 495               |
| その他関西 | 152              | 3.0%       | 414              | 3.1%       | 262               |
| 関西以外  | 841              | 16.8%      | 2,108            | 15.7%      | 1,267             |
| 合計    | 5,010            | 100.0%     | 13,407           | 100.0%     | 8,397             |

注) その他関西には、福井県・三重県・滋賀県・奈良県・和歌山県・鳥取県・徳島県が含まれる。関西以外は、国内の関西以外の地域を指す。  
出所) 筆者作成



# 関西・大阪におけるDXの活用について

P.121参照

- ◆ **夢洲コンストラクション**：「データ標準化・可視化システム」は、各建設会社の持つ車両管理データを一元管理、ダッシュボードに表示して、ワンストップで把握可能(図4-2-3)。システム導入による稼働時間の削減効果を目指す
- ◆ **交通MaaSアプリ(KANSAI Maas)の開発と展開**：交通情報から決済、予約へ

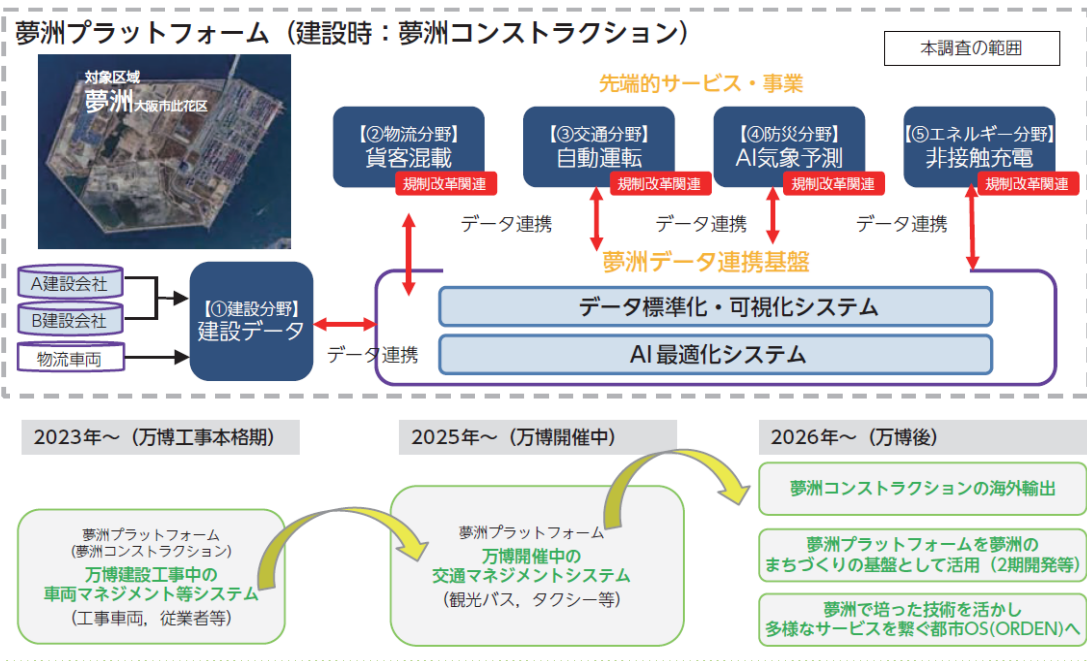
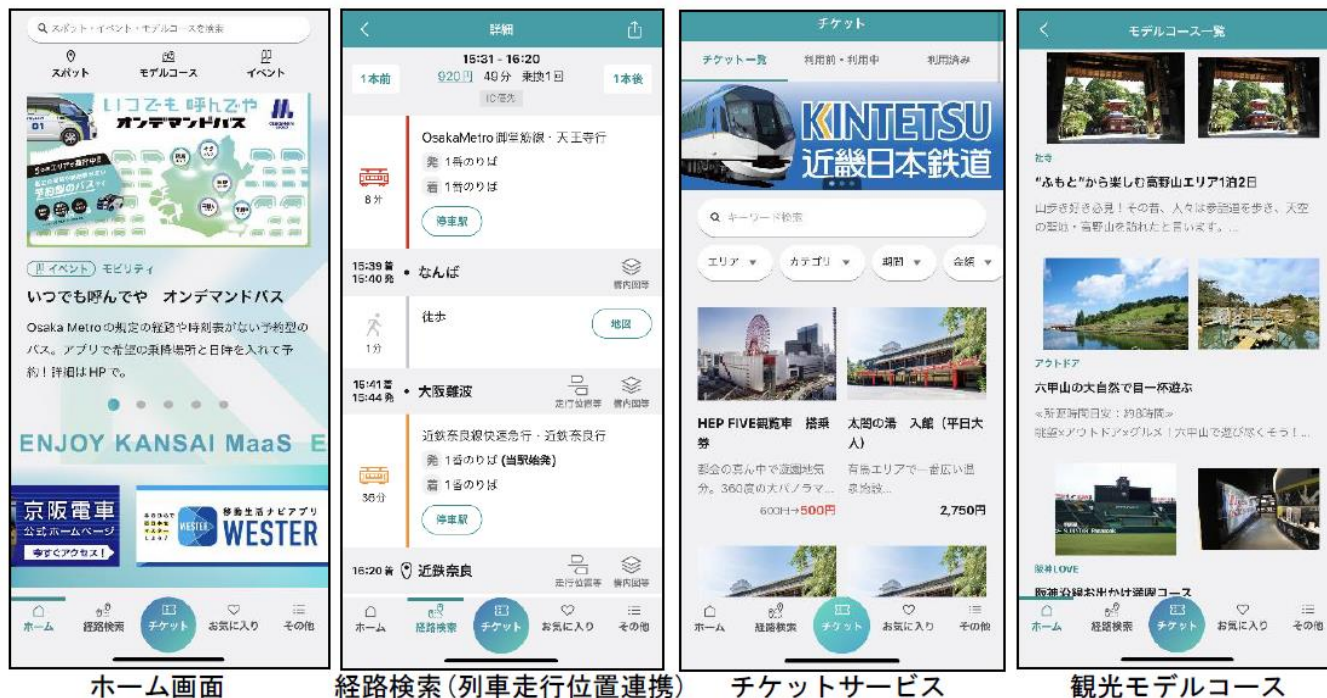


図4-2-3 夢洲コンストラクションのシステム構成とロードマップ

出所) スーパーシティ・スマートシティフォーラム2022 講演会資料 「夢洲コンストラクション」から始まる関西の夢洲まちづくりへの取り組み P21



出所：関西 MaaS 協議会HP「KANSAI Maas アプリのリリースについて」

**ご清聴、ありがとうございました**